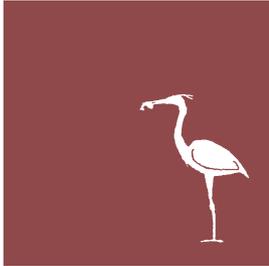


浦幌町立博物館

# 年報

第17号



Historical Museum of Urahoro

---

**2016**

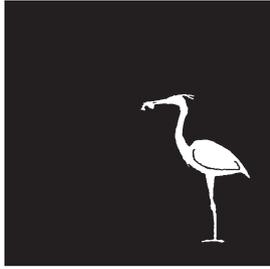
**11**

---

浦幌町立博物館

# 年報

第17号



Historical Museum of Urahoro

---

2015 (平成27) 年度事業報告  
(2015.4.1~2016.3.31)

**2016**

**11**

---

# 序

『浦幌町立博物館年報』第16号をお届けします。これは、2015（平成27）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。

平成27年度は、開館以来入館者15万人を9月に突破することができ、改めて町内外より多くの方々から愛される博物館であることに感謝を申し上げる次第です。

本年度の主な活動としては、2012年に茂川流布川で発掘された「最後のアンモナイト」について、特徴や生態、古生物学上の意義などについて、直接化石に触れながら開催した「うらほろスタイルゼミナール」や、戦後70年にあたり、厚内空襲から70年にもあたる事から、厚内空襲の詳細を中心に戦争関係展示し、第二次世界大戦や平和について考えた、「戦争の企画展」を開催してまいりました。

博物館は、寄贈された多くの生活・産業資料の目録等の作成、展示や関連した事業を進めると共に、文化財に対する理解を深めるため、町内文化財の見学会や広報誌への連載などを積極的に行い、普及促進も図ってきました。

また、図書館と連携した「ロビーコンサート」や多くの企画展を開催し、交流の場としても芸術文化の鑑賞機会の拡充にも取り組んで参りました。

入館者15万人を突破した今日、町内から相次ぐ化石などの発見に関する学術的な意義の発信や、学校の学習教材として取り組んでいくことなどの取り組みが今後ますます必要と考えられますし、調査にて来町される研究者との情報交換や交流の場を設けていくことも必要であります。

最後になりますが、本館の管理運営に種々ご指導賜りました町民皆様方をはじめ、博物館協議会委員、各種講座にてご指導いただいた講師の方々、そして博物館ボランティアの方々には改めてお礼を申し上げ、今後とも多くの方々に深く愛される博物館を目指してまいりますので、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2016年11月10日

浦幌町立博物館長 高 橋 慎

## ●目次

序	i
目次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 受贈資料	13
(2) 採集資料	14
(3) 受贈図書資料	15
IV. 資料の提供	24
V. 博物館の事業	25
VI. 出版・広報活動	41
VII. レファレンス業務	41
VIII. 博物館ボランティア	42
IX. 博物館日誌（抄）	43
X. 博物館の利用状況	50
XI. 博物館の組織	51
XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等	52
XIII. 博物館活動のマスコミ報道	53
XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	80
XV. 平成27年度予算	92

本書は2015（平成27）年度（2015年4月1日～2016年3月31日）までの博物館事業を報告するものです。

## I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所在地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

[museum@urahoro.jp](mailto:museum@urahoro.jp)

建物構造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総工費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

### 博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

### 博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・JR根室線浦幌駅下車 徒歩5分

・とち帯広空港から車で約60分 ・釧路空港から車で約80分

施設設備 エレベーター 1基

車 椅 子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要、II. 常設展示構成

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

## II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②、エトピリカ
	4	花	ウラホロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②、エトピリカ
III	1	デジタルマップ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

III	1	デジタルマップ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川-河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘、アンモナイト化石
	3	十勝川下流域の地質時代史	K-Pg境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・暁式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の轡の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗枿、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鋳	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

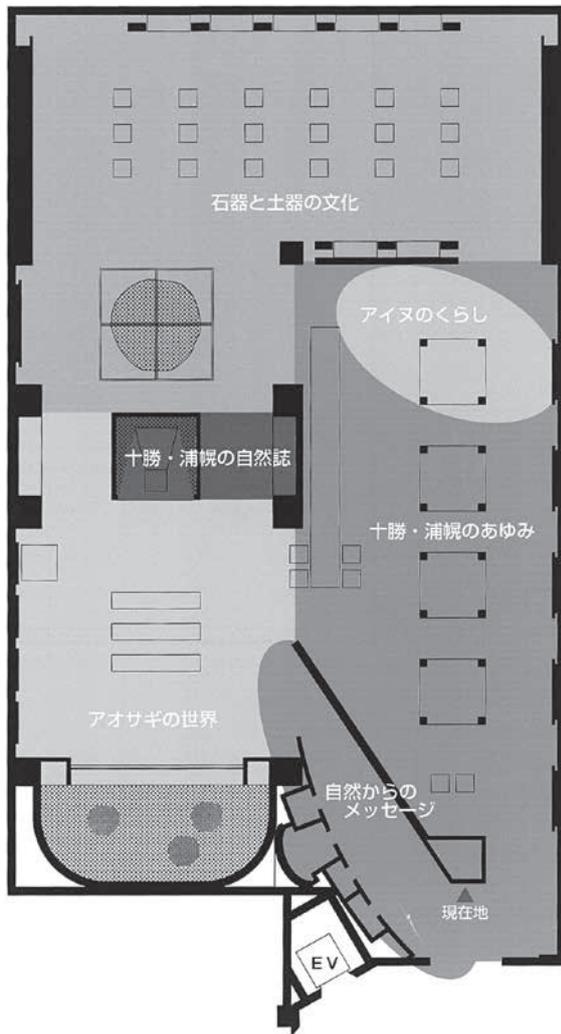


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図

# K-Pg境界

Discoveries of anomalously high Ir concentrations K-Pg boundary sediments

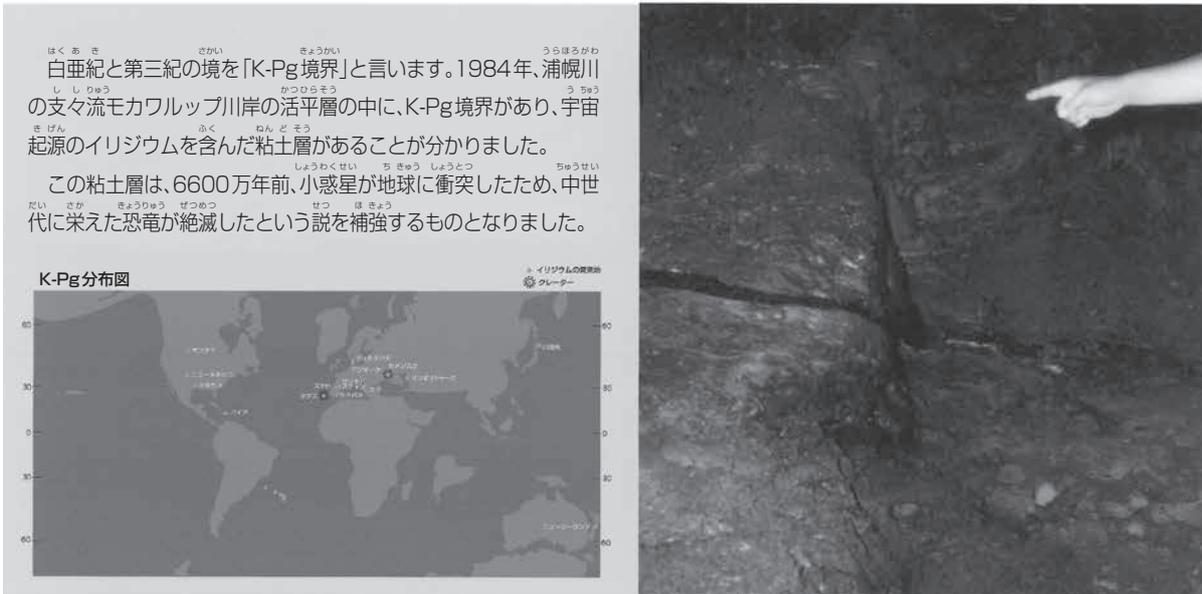


Fig.3 K -Pg 境界

## 十勝川下流域の地質時代史 Geologic age in the region of the lower course of the Tokachi River



Fig.4 十勝川下流域の地質時代史

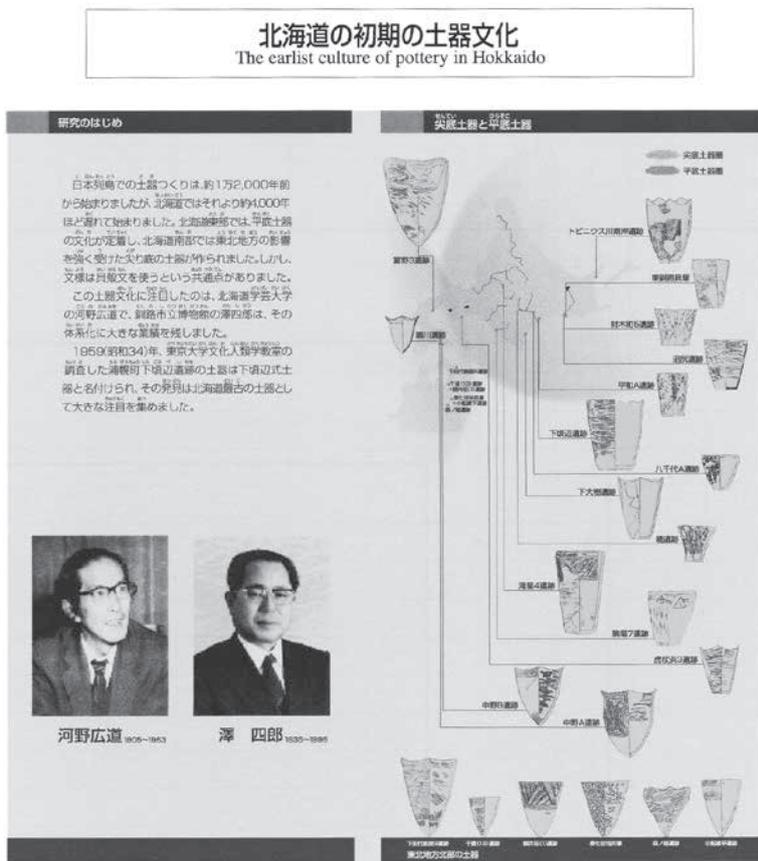


Fig.5 北海道の初期の土器文化



Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

十勝太若月遺跡土坑墓配置図  
Grave No.36, Tokachibuto-Wakatsuki site Epi-Johmon period.



Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図

続縄文文化と墓  
The epi-johmon culture and Grave

**続縄文文化と十勝太若月遺跡**

続縄文文化は、縄文文化の印紋を残しながらも、鉄などを取り入れた文化で、本州の弥生文化に相当します。この文化の遺跡からは墓が発見されることが多く、十勝太若月遺跡は大規模な墓遺跡としてよく知られています。

墓は、楕円形に土函を掘って墓穴としますが、十勝太若月遺跡には長さ7m以上の楕円形の墓や、深さ1m50cmの円形の墓も見つかっています。これらは、2m以上を掘削した土函の可能性があると考えられています。副葬品は、土器の埴輪やヤシリなどの石製、ガラス製の小玉、碧玉製の管玉、コハク製の平玉などの装身飾があり、本州産も含まれています。

**墓の大きさを比べ**

**土坑墓B2の副葬品**

十勝太若月遺跡の土坑墓

Fig.8 続縄文文化と墓



II. 常設展示構成

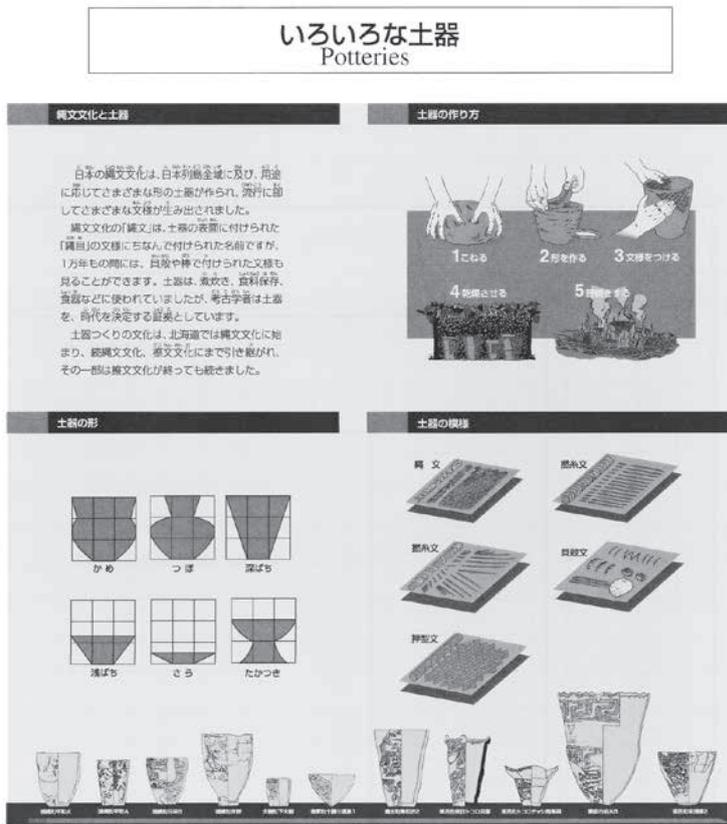


Fig.11 いろいろな土器



Fig.12 いろいろな石器

チャシ  
Cast

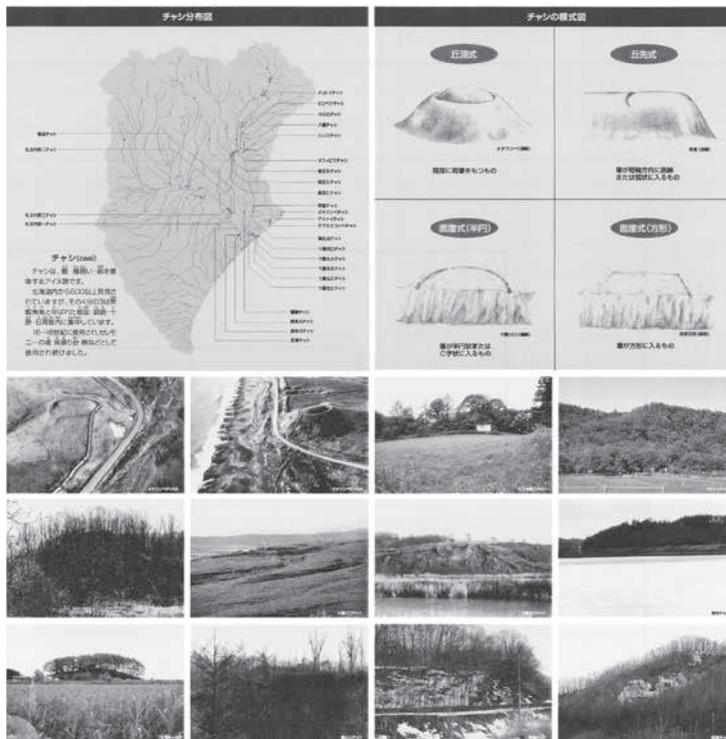


Fig.13 チャシ

送り場  
*kenmoku*: site and that surroundings

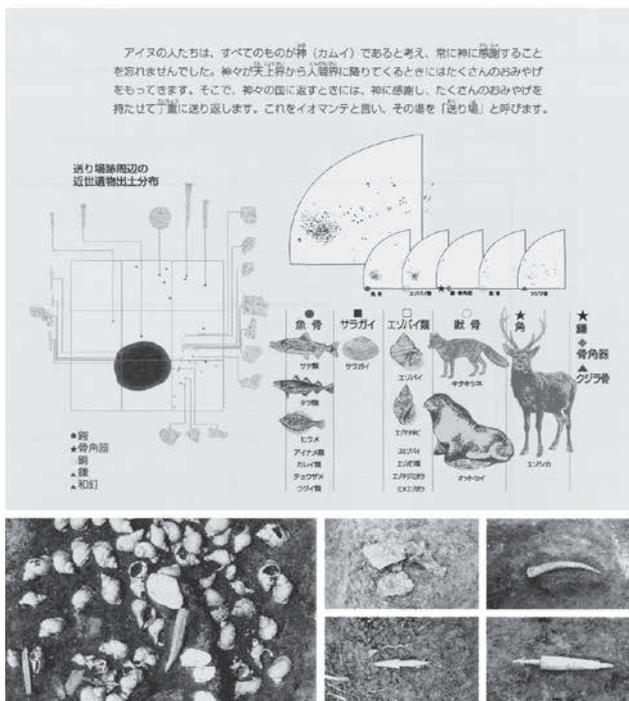


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

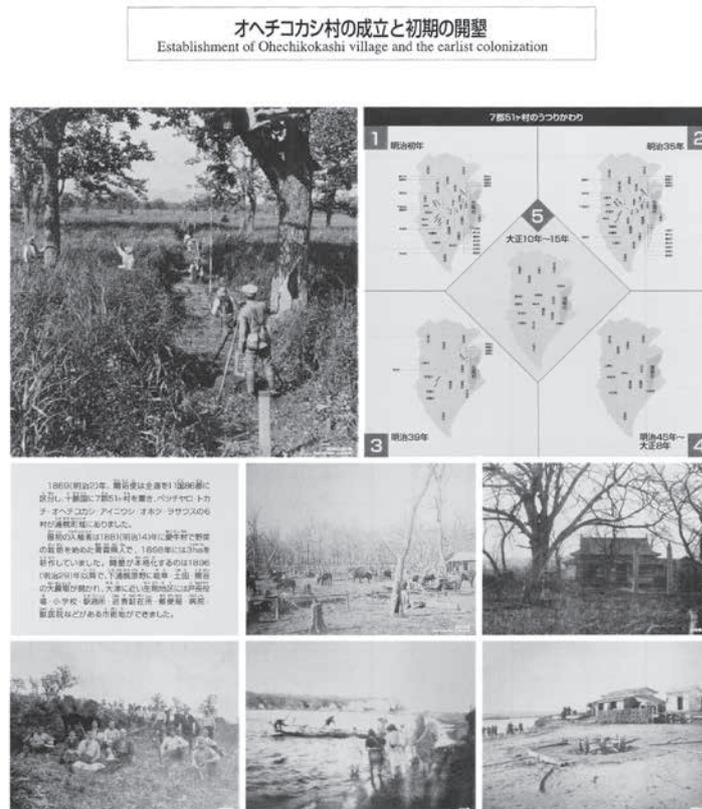


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

## III. 資料の受け入れ

### (1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
1・26	円 子 紳 一	帯 富	国民体育大会スタッフジャンパー	1
2・7	末 安 豊 子	東 山	音盤	5
3・14	末 安 豊 子	東 山	音盤	39
4・2	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	5
4・16	米 澤 喜八郎	住 吉 町	消防団関係資料	23
4・16	川 田 秀 幸	北 町	音盤	37
4・22	米 澤 喜八郎	住 吉 町	ポンポン(毛判)・墨壺・打ち印など木工業関係資料	20
5・28	前 出 彰 子	万 年	浦幌小学校資料・面・手帳・文書・写真ほか各種生活資料	132
5・29	円 子 紳 一	帯 富	浦幌高校応援歌楽譜	2
6・3	大 村 博	住 吉 町	Gペン、鉄筆、ガラスペン、筆箱、計算尺	7
6・23	久 我 サトエ	本 町	浦幌高校校歌歌詞(写)、浦高新聞	4
7・18	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	6
7・21	持 田 誠	新 町	オレンジカード、浦幌町消防団半纏	2
8・22	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	6
8・27	円 子 紳 一	帯 富	運転免許証・保険証等、各種文書資料	12
8・29	酪農学園大学	江 別 市	ヒグマ関係卒業論文	8
9・9	内 閣 官 房	東 京 都	地図	1
9・27	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	9
9・29	楯 省 造	宝 町	まむし焼酎漬・ヤマノカミ掛け軸	2
9・30	畠 山 裕 恵	北 町	顔ハメパネル一式(木台付き)	12
10・1	米 田 和 広	札 幌 市	ヒグマ関係記録DVD	1
10・4	杉 山 年 明	札 幌 市	尺別炭畚、尺別鉄道模型	2
10・6	浦幌町教育委員会	桜 町	平成27年度友好の町絆協定少年道外交流事業派遣団員文集	1
10・8	浦幌町商工会	本 町	コスミックホール落成記念品、創立50周年記念式典資料	2
10・8	北 村 敦 子	帯 富	スキー	16
10・9	円 子 紳 一	帯 富	浦幌高校校歌CD	2
10・9	福 沢 祐 介	幕 別 町	カセットテープ	8
10・10	持 田 誠	新 町	乗車券、オレンジカード	2
10・19	高 田 雅 行	万 年	浦幌高校校歌楽譜、応援歌楽譜	6
10・23	中 村 剛	帯 富	浦幌高校航空写真	2
10・30	前 出 彰 子	万 年	文書資料	3
10・31	持 田 誠	新 町	魅力あふれるとかちパンフレット・急行券	2
11・11	円 子 紳 一	帯 富	浦幌町帯富悠友会創立50周年記念式典・祝賀会	1
11・20	小路谷 守 昌	南 町	北海道バター木箱・氷ばさみ・ヤス・粗線袋・プラウほか	9
11・27	持 田 誠	新 町	音盤	1
11・30	円 子 紳 一	帯 富	国勢調査資料一式	1
11・30	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	学校文集・写真	28

III. 資料の受け入れ

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
12・2	村 中 利 広	寿 町	卓袱台・扇風機・はかり・棹秤	4
12・7	中 村 剛	帯 富	浦幌高校校歌ペナント、タペストリー	3
12・8	佐 藤 知 子	帯 広 市	マッチ	4
12・9	円 子 紳 一	帯 富	浦幌高校記念誌・浦幌サロンコーラスプログラム	3
12・9	川 田 秀 幸	北 町	いくら木箱など水産関係資料	8
12・9	持 田 誠	新 町	銀行貯金通帳、カード	2
12・10	干 場 雅 俊	宝 町	マッチ、タオルなど	3
12・15	円 子 紳 一	帯 富	西田祐子ピアノ教室発表会プログラム	1
12・16	北 村 敦 子	帯 富	写真・音盤	32
12・16	持 田 誠	新 町	町立病院広報、文書	4
12・15	岩 崎 幸 子	新 町	マッチ	8
12・18	川 田 秀 幸	北 町	筋子外装箱	1
12・19	杉 本 年 明	札 幌 市	浦幌町史、五十年沿革史ほか書籍	6
12・20	木 下 容 子	末 広 町	第19回太平洋スピードマラソン記念品、風呂敷	2
12・27	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	アイカケ（牽引方人力カルチベーター）	1

(2) 採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
4・23	十勝の産業	1	1936年版十勝支庁発行
5・13	タウンページ 十勝地方版	1	NTT東日本電話帳
5・13	ハローページ 池田地方版	1	浦幌町・洋野町友好の町絆協定
10・16	チェックダイヤ	1	北海道旅客鉄道2012年12月10日使用開始版
12・19	マッチ	1	ファミリーレストランうらほろ亭
12・19	箸袋	1	辰正
12・21	平成二十八年開運神宮暦	1	
12・25	URAHOROテレマップ2004.04	1	浦幌町商工会
12・25	URAHOROテレマップ2009.10	1	浦幌町商工会
12・25	URAHOROテレマップ2015.12	1	浦幌町商工会
12・28	チラシ	101	町内業者、団体の折り込み広告類
1・10	チョウ標本	70	モンキチョウなど30種
1・6	カレンダー	1	帯広信用金庫
1・6	カレンダー	1	浦幌町商工会
1・13	第48回東部十勝小学校スピードスケート大会	1	十勝東部方面教育振興会
2・20	マッチ	1	然別湖温泉ホテル風水
3・25	広報 Urahoro No.756～767	12	浦幌町まちづくり政策課広報広聴係
3・25	うらほろ議会だよりNo.167～170	4	浦幌町議会広報編集特別委員会
3・29	申請してね！マイナンバーカード	1	総務省ポスター

(3) 受贈図書資料

【北海道】

(公財) アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ語ラジオ講座 (石狩方言) 7月～12月  
Vol.2～4

アイヌ語ラジオ講座 Vol.1 十勝方言  
平成27年度アイヌ文化財団のあらまし  
アイヌの人たちとともに -その歴史と文化-  
第19回アイヌ語弁論大会報告書 イタカンロー  
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告  
第15号

助成事業案内 平成28年度版  
木と生きる ～アイヌのくらしと木の造形～  
アイヌ生活再現マニュアル 踊り DVD付  
普及啓発講演会報告集 平成26年度  
アイヌプリ ～アイヌの心をつなぐ～  
アイヌの昔話 雷を打ち負かした女の子  
オルシペ スウオプ DVD 第4号

(一財) アイヌ民族博物館

アイヌ民話ライブラリ3 上田トシの民話3  
CD2枚付

アイヌ民族博物館 開館30周年記念誌

あかえぞ文藝舎

あかえぞ 第32号

旭川市科学館

旭川市博物館研究報告第21号  
科学館研究報告第10号

旭川市科学館報vol.6

旭川市博物館報vol.21

旭川市北邦野草園

旭川市北邦野草園研究報告 第4号

厚内小学校

二十年の軌跡  
牧野日本植物圖鑑  
牧野新日本植物圖鑑  
北海道行幸啓誌  
北海道百年記念事業の記録  
北海道教職員組合 組合史 第一集  
詩集どろ亀さん  
「秘宝」十勝の古代史  
北海道教育要覧  
図鑑 北日本の魚と海藻

社協創立三十五周年記念誌

茂岩・池田河川事業所史 十勝川下流のあゆみ

茂岩・池田河川事業所史

「十勝川下流のあゆみ」工事台帳

北海道立旭川美術館

氷華 No.58

厚岸町海事記念館

厚岸町海事記念館だより No.45～47

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第5巻

エスチュアリ 048

浦河探鳥クラブ

浦河鳥類目録

エゾリスの会

エゾリス 第107～108号

恵庭市郷土資料館

島松Bチャシ跡・島松沢8遺跡

恵庭市内遺跡発掘調査等報告書

柏木川7遺跡II

NPO法人日本野鳥の会十勝支部事務局

十勝野鳥だより 189～190号

江別市郷土博物館

展示解説パンフレット 木製戦闘機キ106

年報 Vol.12 江別市郷土資料館

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

平成26年度 活動報告書

えりも研究 第12号

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第29号

稲垣益徳日誌

音更町教育委員会

音更の歴史に光を-集録集-

「戦争遺跡」北部91部隊の給水塔

音更町文化協会

文芸おとふけ 第四十七号

帯広第八中学校支援地域本部・大山緑地と若葉の

森を愛する会

大山緑地と若葉の森の自然

自然観察ハンドブックその4

**釧路市立博物館**

釧路市立博物館館報 No.416～417

**釧路市埋蔵文化財調査センター**

釧路市緑ヶ岡1遺跡・材木町3遺跡

**札幌市教育委員会**

市内遺跡発掘調査報告書7

H508遺跡

C551遺跡 第103号

**札幌市博物館活動センター**

Muse Letter No.62～64

**沙流川歴史館**

沙流川歴史館年報 第16号

沙流川歴史館だより No.56～59

**自然ウォッチングセンター**

北海道ウォッチングガイド No.312～318

**標茶町教育委員会**

北海道標茶町元村遺跡発掘調査報告書

～塘路湖エコミュージアムセンター除雪機格

納庫新設に伴う埋蔵文化財調査～

**標茶町郷土館**

標茶町郷土館報告 第27号

**士別市立博物館**

士別市立博物館報告 第28～32号

**標津町教育委員会**

天然記念物標津湿原保全対策調査報告書

**白糠町教育委員会**

軍馬補充部釧路支部遺跡調査報告書

**新得町民文芸編集委員会**

町民文芸 第44号

**新ひだか町教育委員会**

シベチャリ川流域チャシ跡群

保存管理計画書 DVD付

**伊達市教育委員会**

伊達 一遺跡と歴史の散歩道-

**千歳市教育委員会**

千歳市文化財調査報告書39

市内遺跡発掘調査報告書1 付図付

**十勝乳牛改良同志会連合会**

第14回全日本ホルスタイン共進会

2015十勝のホルスタイン

**苫小牧市美術博物館**

美術博物館だより No.3

館報 第11号

苫小牧市美術博物館紀要 第1号

苫小牧市美術博物館年報 第1号

**豊頃町教育委員会**

郷土文芸誌 河口 第39号

**中川町教育委員会**

安平志内川 右岸遺跡

**中標津町教育委員会**

中標津町郷土館だより 第27号

**根室市歴史と自然の資料館**

根室市歴史と自然の資料館紀要 第27号

くるまいし No.30

**市立函館博物館**

S A R A N I P No.55

千島樺太交換条約とアイヌ

**特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団**

函館市陣川町3遺跡

函館市白尻A遺跡

函館市サイベ沢遺跡 (2)

**北海道立函館美術館**

浮世絵・雑誌・絵はがきに見る

幕末・明治の戦争イメージ

瀬戸英樹展 失われゆくものへのオマージュ

魯山人の宇宙

**美幌博物館**

美幌博物館報 2013

美幌博物館研究報告 第22号

2014年度 博物館自然講座

すてきな昆虫たち

THE FAR EAST GREAT SALMON イトウ

北の原野に生きる

**平取町立二風谷アイヌ文化博物館**

2013年

平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

**富良野市博物館**

ふらの歴史的建造物 ハンディガイドブック

**別海町郷土資料館**

別海町郷土資料館だより No.189～200

**北翔大学北方圏学術情報センター**

北翔大学北方圏学術情報センター年報 Vol.7

**星の降る里百年記念館**

平成25年度版年報 Vol.21

**北大植物園**

- 北海道大学農学部博物館研究紀要 第1号
  - 北大植物園研究紀要 第2～15号
  - 北海道大学農学部博物館資料目録
  - 折居彪二郎氏採集 動物標本目録 第1号
  - 北大植物園資料目録 第2号
    - T.W.ブラキストン 鳥類目録
  - 北大植物園資料目録 第3号
    - 北大植物園 高等植物目録
  - 北大植物園資料目録 第4号
    - アメリカ自然史博物館 交換鳥類標本目録
  - 北大植物園資料目録 第5号
    - 所蔵考古資料目録 (1)
  - 北大植物園資料目録 第6号
    - アイヌ民族資料目録
  - 北大植物園資料目録 第6号
    - アイヌ民族資料目録 索引編
  - 北大植物園資料目録 第7号
    - 阿部永博士寄贈 哺乳類標本目録
  - 大学博物館所蔵古写真の現代的意義に関する研究
- 北海学園大学**
- 学園論集 第162～166号
- 北海道開拓記念館**
- 士別市朝日町 知恵の蔵・活動プログラム集
    - ・おすすめマップ
  - 士別市朝日町の農林業の歴史と文化 CD
    - 聞き取り調査の記録-
- (公財)北海道科学文化協会**
- 北海道青少年叢書 (三十三)
    - 北国に光を掲げた人々
- 北海道教育大学**
- 北海道教育大学紀要 自然科学編
    - 第65巻 第2号・第66巻 第1号
  - 北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編
    - 第65巻 第2号・第66巻 第1号
- 北海道教育大学旭川校附属図書館**
- 帝塚山学院大学研究論集 第四十九集
  - 豊橋市自然史博物館年報 第27号
- 北海道大学総合博物館**
- 北海道大学総合博物館ニュース 第31～32号
  - 恐竜トランクキット・ガイドブック1

骨からわかる恐竜のからだ

**北海道大学埋蔵文化財調査センター**

- 北大構内の遺跡 XXI
- 北海道大学埋蔵文化財調査センター
  - ニュースレター 第21～23号

**北海道博物館**

- 北海道開拓記念館研究紀要 第43号
- 北方地域の人と環境の関係史研究報告
- 夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界
- 森のちゃれんがニュース vol.1～3

**北海道博物館協会**

- 道博協ニュース 第114～116号

**北海道文化遺産活用活性化実行委員会**

- 教えて!なっちゃん先生 北海道大昔のくらし
  - 郷土の理解と体験学習の手引き

**北海道文化財保護協会**

- 平成26年度北海道文化遺産活用活性化計画
  - 事業報告書
- 文化情報 第353～354号
- 会員だより 第22号

**(公財)北海道埋蔵文化財センター**

- 調査報告 28
- 北海道立埋蔵文化財センター年報 16
- 重要遺跡確認調査報告書 第10集

**北海道立文学館**

- 北海道文学館報 第102・104号

**北海道立文書館**

- 赤れんが 北海道立文書館報 No.51

**北海道立近代美術館**

- 美術で結ぶ「とき」と「ひと」-北海道・
  - 市民と韓国の「出会い」創造活動事業
- 木工家の生まれ方 カタチの生まれ方
- アール・ヌーヴォーのガラス デュッセルドルフ
  - 美術館ゲルダ・ケプフ・コレクション
- 日韓近代美術家のまなざし-『朝鮮』で描く
  - 夢見るフランス絵画展
- 印象派からエコール・ド・パリへ

**北海道立北方民族博物館**

- 北海道立北方民族博物館研究紀要 第24号
- 北海道立北方民族博物館年報 平成26年度
- 北方民族博物館だより No.97～100
- 第29回 北方民族文化シンポジウム網走報告

III. 資料の受け入れ

環境変化と先住民の生業文化 -開発と適応-  
北方民族研究30年-成果・課題・博物館の役割-  
森と川の精霊とともに

ロシア・アムール地方のアート&クラフト

**北方山草会**

北方山草 第33号

**幕別町教育委員会**

幕別町蝦夷文化考古館 吉田菊太郎資料目録Ⅲ

**三浦綾子記念文学館**

神奈川近代文学館30年誌 1984-2013

**三笠市立博物館**

三笠市立博物館年報 第32号

三笠市立博物館紀要 18号

**むかわ町立穂別博物館**

むかわ町立穂別博物館館報 第31～32号

むかわ町立穂別博物館研究報告 No.29～31

**余市町教育委員会**

余市町登町4遺跡

**利尻町立博物館**

利尻研究 利尻町立博物館年報 第35号

**大津・十勝川学会**

大津十勝川研究 第13号

**帯广大谷短期大学**

帯广大谷短期大学紀要 第52号

帯广大谷短期大学地域連携推進センター紀要  
第1～2号

**帯広百年記念館**

帯広百年記念館紀要 第33号

本別町生活文化誌抜刷

第九編アイヌの生活と文化

アイヌ民族に関する指導資料

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

収蔵品目録1 1997.7～2000.3

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

収蔵品目録2 杉村資料Ⅰ

アイヌ工芸品展 テケカラペー女のわざ

-ドイツコレクションから-

国立歴史民俗博物館研究報告 第86～106集

開館二〇周年記念論文集

国立歴史民俗博物館研究報告 第108・115集

北海道内の主要アイヌ資料の再検討

北海道の名付け親 松浦武四郎の生涯

松浦武四郎翁

**帯広百年記念館友の会**

とちらぼうず 第33号

**神田日勝記念美術館**

神田日勝記念美術館だより No.33

神田日勝の造形思考 ～キュビズム的多視点～

**神田日勝記念美術館友の会**

画室 Vol.47～48

**ひがし大雪自然館**

ひがし大雪自然館研究報告 第2号

**森町教育委員会**

鷲ノ木遺跡Ⅱ

森町埋蔵文化財調査報告書第23集

**りくべつ宇宙地球科学館**

天文台だより Vol.68～71

**陸別町郷土研究会**

郷土研究 陸別町郷土研究会 会報 第22号

**久我サトエ**

天皇陛下御作詞 皇后陛下御作曲 歌声の響

**坂巻正美**

熊に生る-北方圏における森の思想-を語る

**高田雅行**

大平原の忘れ得ぬ人々 本別編 第7号

大平原の忘れ得ぬ人々 鹿追編 第8号

**信太成子**

テンキの妙

**松井 洋**

北海道維管束植物目録

**持田 誠**

戦後70年 忘れ得ぬ戦禍

北海道新聞地方版から

**浦幌町教育委員会**

町民文芸第32号 樹炎

**浦幌ヒグマ調査会事務局**

浦幌クマ便り vol.16～17

**稚内市教育委員会**

稚内市 市内遺跡発掘調査等事業報告書(1)

**【青 森 県】**

**青森県教育庁文化財保護課**

特別史跡 三内丸山遺跡年報 19

三内丸山通信 第62～63号

**青森県立郷土館**

青森県立郷土館報 第42号

青森県立郷土館だより

Vol.47 No.1 通巻162号

**全国史跡整備市町村協議会**

全史協50年のあゆみ

**八戸市博物館**

八戸市博物館年報 第32号

八戸市博物館研究紀要 第29号

八戸市博物館 収蔵資料目録 歴史編 (9)

博物館だより No.50

**【岩手県】**

**一関市博物館**

一関市博物館研究報告 第18号

菅原清蔵コレクション3 東北の土人形

**岩手県立博物館**

岩手県立博物館だより No.145～148

岩手県立博物館研究報告 第33号

**岩手県北上市立博物館**

北上市立博物館 博物館だより No.37

**北上市立鬼の館**

北上市立鬼の館だより No.43～44

**宮沢賢治記念館**

平成26年度 宮沢賢治記念館年報

宮沢賢治記念館通信 第113～114号

**【宮城県】**

**仙台市富沢遺跡保存館 仙台市縄文の森広場**

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2015

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

研究報告 2014

3万年前の旧石器ライフ 展示図録

**東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館**

芹沢銈介美術工芸館年報 6

**【秋田県】**

**秋田県立博物館**

秋田県立博物館ニュース No.162

**【山形県】**

**山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館**

2014 年報 No.22

第23回企画展 重要文化財 水木田遺跡展

うきたむ 第45～46号

**【新潟県】**

**新潟県立歴史博物館**

新潟県立歴史博物館研究紀要 第16号

**十日町市博物館**

十日町市博物館年報 第1号

**【茨城県】**

**大洗町幕末と明治の博物館**

大洗町幕末と明治の博物館報

平成26年度 第4号

**ミュージアムパーク茨城県自然博物館**

茨城県自然博物館研究報告 第18号

A・MUSEUM vol.85～86

**【千葉県】**

**国立歴史民俗博物館**

ドイツと日本を結ぶもの

～日独修好150年の歴史～

企画展示 大久保利通とその時代

伝統の古典菊

**野田市郷土博物館・市民会館**

野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第7号

生誕180年押絵師 勝 文斎

～野田にやってきた江戸・東京文化～

**千葉県博図公連携事業実行委員会**

くまりのみんわ めだおろち

きつねのだんご

千葉県の妖怪ガイド

**千葉県立中央博物館**

千葉県立中央博物館 自然誌研究報告 第1号

千葉県立中央博物館 自然誌研究報告

第1巻第2号・第2～7巻第1～2号

第8巻第1号・第9～12巻第1～2号

第13巻第1号

千葉県立中央博物館 自然誌研究報告特別号

第1～9号

千葉県立中央博物館 研究報告 人文科学

第1～2号

千葉県立中央博物館 研究報告 人文科学

第1巻第3号・第4巻第1～2号

第8巻第2号・第9巻第1～2号

第10巻第1号

NATURAL HISTORY RESEARCH

第2～13巻第1～2号

NATURAL HISTORY RESEARCH SPECIAL ISSUE,

NUMBER 1～9

III. 資料の受け入れ

豊饒の房総 千葉県立中央博物館展示案内  
千葉県立中央博物館房総の山のフィールド・ミュージアム

しいむじな 第49～52号

【埼玉 県】

入間市博物館

入間市博物館紀要 第1～11号

アリティフェスタ2010 特別展

野生植物が語る武蔵野の景観

春日部市郷土資料館

旅の途中でひとやすみ

東日本鉄道文化財団 鉄道博物館

大宮駅・宇都宮線開業130周年記念企画展

OH!MIYA HISTORY

鉄道博物館第11回企画展 ふたつのスタート

北陸新幹線・上野東京ライン開業記念展

北海道新幹線開業記念展 海を航る

-船・鉄道・新幹線-

【東京 都】

アート・ドキュメンテーション学会

第8回秋季研究発表会・第64回見学会予稿集

青山学院大学史学科研究室

青山史学 第33号

出光美術館

出光美術館報 第170～173号

(一財)地域創造

「平成26年度地域の公立文化施設実態調査」

報告書

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS vol.90～93

東京都江戸東京博物館研究報告 第9～16号

東京都江戸東京博物館紀要 第1～4号

お茶の水女子大学学芸員課程

博物館実習報告 第31号

國學院大學 学術資料センター

國學院大學学術資料センター研究報告

第31輯

環境省

Red Data Book 2014 8/植物 I

渋沢栄一記念財団

渋沢栄一記念財団の挑戦

渋沢史料館

渋沢研究 第28号

昭和女子大学 国際文化研究所

14・15世紀海域アジアにおけるベトナム陶磁の

動き-ベトナム・琉球・アジャパヒト-

駿台史学会

駿台史学 第155～157号

誠文堂新光社

子供の科学 2月号

世田谷区立郷土資料館

世田谷叢書第九集

旧太子堂村森家文書 御用留二

世田谷の土地 -絵図と図面を読み解く-

資料館だより No.63

玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館紀要 第5～12号

玉川大学教育博物館館報

2002年度～2014年度 創刊号～第13号

博物館ニュース SHÛ No.46

(公財)多摩市文化振興財団

パルテノン多摩《博物館部門》年報・紀要

第1～6号

パルテノン多摩《博物館部門》年報

第7～9号

パルテノン多摩 博物館部門 研究紀要

2004 第8号

パルテノン多摩 博物館部門 研究紀要

第11～12号

衣紋道 高倉家秘蔵展

パルテノン多摩 MUSEUM NEWS vol.30～31

豊島区立郷土資料館

生活と文化研究紀要 第24号

かたりべ No.116～119

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

雑司が谷旧宣教師館だより 第56号

東京家政大学博物館

東京家政大学博物館館報 第63～64号

東京家政大学博物館紀要 第二十集

東京大学総合研究博物館

東京大学総合研究博物館ニュース

Ouroboros Volume20 Number1～3

東京農業大学学術情報課程

学術情報課程通信 No.4

**郵政博物館資料センター**

郵政歴史文化研究会編 郵政資料館 研究紀要  
創刊号～第3号  
郵政歴史文化研究会編 通信総合博物館  
研究紀要 第4号  
郵政歴史文化研究会編 郵政博物館 研究紀要  
第5～6号

**法政大学史学会**

法政史学 第83～84号

**法政大学国際日本学研究所**

国際日本学研究所 研究成果報告集 第12号  
国際日本学研究所叢書21  
日本のアイデンティティとアジア  
国際日本学研究所叢書24〈日本意識〉の未来  
グローバル化と〈日本意識〉  
法政大学国際日本学研究所 研究成果報告集  
「国際日本学」第13号  
HOSEI I. J. S. The Newsletter No.22

**文化庁文化財部記念物課**

史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書  
日本遺産

**町田市立博物館**

2014年度 年報/紀要  
町田の伝承 年中行事  
町田市文化財保護審議会編 2009  
多摩の民具 くるり棒  
民俗学講演会記録(第一回)  
多摩の年中行事 昭和六十二年度  
民俗学講演会記録(第二・三回)  
多摩の食生活・多摩の民間信仰 一九八七・  
一九八八年度  
境川流域民俗調査報告書 2006.3  
農耕図と農耕具展

**明治大学学芸員養成課程**

MUSEUM STUDY  
明治大学学芸員養成課程紀要 26号  
MUSEOLOGIST  
明治大学学芸員養成課程年報 30号

**明治大学博物館**

2014年度 明治大学博物館年報  
明治大学博物館研究報告 第20号

**立正大学史学会**

立正史学 第117～118号

**【神奈川県】**

**神奈川県立生命の星・地球博物館**

神奈川県立自然誌資料 第2～37号  
Six New Species of Caddisflies from  
Tanzawa Mountain Mass, Kanagawa  
Prefecture, Japan 第1巻第4号  
神奈川県立博物館研究報告 自然科学  
第1巻第1・5号  
神奈川県立博物館研究報告 自然科学  
第7～45号

**神奈川大学日本常民文化研究所**

神奈川大学日本常民文化研究所 2015-2017  
民具マンスリー 第48巻1～12号

**川崎市市民ミュージアム**

川崎市市民ミュージアム紀要 第27集

**日本大学生物資源科学部**

人間科学研究 第13号

**日本大学生物資源科学部博物館**

日本大学生物資源科学部博物館 博物館報No.24  
うなぎプラネット

**日本郵船歴史博物館**

日本郵船歴史博物館収蔵品展

**平塚市博物館**

平塚市博物館年報 第38号  
自然と文化 第38号

**横浜市歴史博物館**

横浜市歴史博物館資料目録 第23集  
横浜市歴史博物館調査研究報告 vol.11  
横浜市歴史博物館紀要 第19号  
横浜市歴史博物館NEWS No.39～40  
蒔田の吉良氏  
大おにぎり展 出土資料からみた穀物の歴史  
鶴見川流域の暮らし 生業・水運・信仰  
鶴見川流域の狛犬百態  
鶴見川流域フィールドワーク調査報告  
君も今日から考古学者!  
古代の仏教  
平成26年度 学校内歴史資料室を活用した  
博物館デビュー支援事業 年報

**横浜みなと博物館**

横浜港ゆかりの船

III. 資料の受け入れ

企画展 歌・映画・小説のなかの横浜港  
豪華客船インテリア画展  
報道写真が映す戦後の横浜港  
神奈川新聞社創業125周年記念

[企画展] 横浜開港祭展  
-50年・100年・150年-

企画展 憧れのクルーズ  
企画展 横浜港と関東大震災  
-震災からの復興-

企画展 横浜港と生糸貿易  
開館25周年記念展  
船の旅と横浜港 秘蔵コレクション

企画展「愛すべき海辺の観光の今・昔」  
横浜みなと博物館 帆船日本丸 展示案内

【長野県】

飯田市美術博物館

飯田市美術博物館研究紀要 第25号  
飯田市美術博物館年報 第24号  
伊那谷自然史論集 vol.16

【富山県】

魚津市教育委員会

富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告2  
-下中島-  
富山県魚津市松倉城郭群調査概要

富山県埋蔵文化財センター

富山県埋蔵文化財センター年報 平成26年度  
埋文とやま VOL 131～134  
下老子笹川遺跡  
下老子笹川遺跡 出土品集  
小竹貝塚

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報 第33号  
向島文庫目録 第5集  
特別展 とやまの船と船大工  
～船が支えた人びとの暮らし～  
特別展 思い出をつなぐ 暮らしを知る  
-博物館と地域回想法-

【愛知県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第34号

名古屋市博物館

名古屋市博物館だより vol.216

【滋賀県】

滋賀県立琵琶湖博物館

修験の聖地と「なりわい」  
琵琶湖博物館研究調査報告 第28号

【京都府】

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館報 第18号

(公財) 古代学協会

初音 公益財団法人 古代学協会  
平成26年度年報

リス・ムササビ ネットワーク事務局

リスとムササビ No.35～36

【三重県】

皇學館大学研究開発推進センター

平成25年度皇學館大学研究開発推進センター  
年報 第1号  
平成25年度皇學館大学研究開発推進センター  
紀要 第1号  
皇學館大学研究開発推進センター年報 第2号  
皇學館大学研究開発推進センター紀要 第2号

【奈良県】

(公財) 奈良人権文化財団 水平社博物館

水平社博物館研究紀要 第17号  
LUCIFER 第18号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第28号

(独) 奈良文化財研究所

奈良文化財研究所紀要 2015  
奈良文化財研究所概要 2015  
埋蔵文化財ニュース 162～165

奈良大学文学部文化財学科

文化財學報 第三十三集  
西山要一先生退職記念論集

【大阪府】

追手門学院大学

Musa 博物館学芸員課程年報 第17～29号

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館研究報告 第69号  
大阪市立自然史博物館報 第40号

大阪大谷大学博物館

博物館だより No.117～118  
大阪大谷大学博物館報告書第62冊

影印 河内屋可正旧記一

**大阪大谷大学歴史文化学科**

大阪大谷大学歴史文化研究 第15号

志学台考古 第15号

**関西大学博物館**

関西大学博物館紀要 第21号

阡陵 No.71～72

実施報告 大学の扉を開く

**かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会**

大学の扉を開く

**吹田市立博物館**

博物館だより No.64～65

**【兵庫 県】**

**兵庫県立人と自然の博物館**

Nature and Human Activities

1996～2007 No.1～11

人と自然 第1～20号

人と自然 特別号平成15年度総合共同研究

「博物館の新展開」

**姫路市立城郭研究室**

姫路市立城郭研究室年報 vol.25

**(公財) 竹中大工道具館**

竹中大工道具館NEWS Vol.33～34

**【広島 県】**

**庄原市立比和自然科学博物館**

庄原市立比和自然科学博物館 標本資料報告

第14～15号

比和科学博物館研究報告 第55～57号

**比婆科学教育振興会**

比婆科学 第252～255号

**(株)熊平製作所**

抜萃のつゞり その七十五

**【山口 県】**

**下関市立考古博物館**

下関市立考古博物館研究紀要 第19号

下関市立考古博物館年報 第20号

綾羅木郷遺跡とその時代 -環濠集落事始め-

あやらぎ No.26

**【福岡 県】**

**福岡市教育委員会**

福岡市埋蔵文化財センター年報 第34号

**【宮崎 県】**

**九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科**

学芸員養成課程

九州保健福祉大学博物館学年報4号



## IV. 資料の提供

貸出先	有限会社ホリ・プロダクツ
資料名	オタフンベチャシ空撮写真
目的	北海道地区しんぎん広報誌『FOR YOU』掲載のため
期間	平成27年5月8日

貸出先	株式会社小学館出版局
資料名	十勝太若月遺跡出土石偶写真
目的	『日本美術全集』掲載のため
期間	平成27年7月3日

貸出先	北海道博物館
資料名	アンモナイト <i>Diplomoceras cylindraceum</i> 化石
目的	第3回企画テーマ展「北海道のアンモナイトとその魅力」にて展示のため
期間	平成27年11月15日～平成28年1月31日

貸出先	神奈川県立生命の星・地球博物館
資料名	ヤチボウズ断面写真および博物館講座「ヤチボウズ大解剖」の写真
目的	企画展「スゲ展」にて展示のため
期間	平成27年12月2日

貸出先	株式会社誠文堂新光社
資料名	アンモナイト <i>Diplomoceras cylindraceum</i> 化石の写真
目的	雑誌『子供の科学』2016年2月号掲載のため
期間	平成27年12月25日

貸出先	小川巖
資料名	盃および膳一式
目的	テレビ放映のための鑑定予備審査のため
期間	平成28年2月10日～3月1日

貸出先	浦幌町商工会
資料名	K/Pg境界層およびアンモナイト <i>Diplomoceras cylindraceum</i> 化石の写真
目的	コスミックホール展示パネル更新のため
期間	平成28年2月20日

## V. 博物館の事業

### 平成27年度浦幌町立博物館運営方針

浦幌町教育の日・小中一貫教育・コミュニティ・スクール・学校支援を地域全体で具現化するために生涯学習の観点から浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

- 学校との連携を強化し、展示資料等や町内の教育的資源をもとに総合学習や理科・社会・歴史などの教科指導に深く関わり博物館の教育機能を最大限に活用・発揮します。小中一環教育・コミュニティ・スクール導入を見据え、学校支援ボランティア派遣・育成にも応えていきます。(総合学習・理科・社会・歴史等)
- 本町全体を総合的ミュージアムと位置付け、内外の研究者や町民を巻き込みながら新たな発見を求めて調査・研究活動や博物館講座を開催します。また、貴重な収蔵資料をもとに定期的に小企画展を開催します。(化石・昆虫・植物研究)
- 町民の貴重な財産である歴史・産業遺産、地質、恵まれた自然等を教育的資源として活用し、「うらほろスタイルゼミナール」や「博物館ミニ移動講座」「各種博物館講座」を実施します。(考古学・産業遺産・戦争遺産・第四紀・第三紀・白亜紀・ヒグマ・四季の植物等)
- 管内外の博物館、研究機関、福祉団体や産業・観光団体と連携し、浦幌の魅力を探り発信します。(各大学等の研究機関との合同研究、ロングトレイル協議会・高齢者団体等との連携)
- 博物館を人々の生涯学習の場として魅力あるものに育て、それを支えていくために、展示資料説明・古文書解説・アイヌ文化伝承等の気軽に参加できるボランティア活動の人材育成と実践の場を設けます。
- 個人のジャンルや興味に関係なく博物館に気軽に集えるよう、各種企画展やプチミュージアム、ロビーコンサート、ナイトミュージアム等を図書館・公民館と連携し、開催します。
- アイヌ協会浦幌支部と連携し、アイヌの食や工芸などのアイヌ文化伝承を図り、合わせて体験・発表・鑑賞の機会を設定します。  
自然とともに生きる知恵を、暮らしに活かしてきたアイヌ文化を伝承するため広く町民に呼びかけ、アイヌ文化に触れる機会をつくります。  
(アイヌ文様刺繍・木彫・アイヌ文化伝承展等)

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
収集	物品資料登録	新収集資料・受贈資料の整理登録化	通年	-	
	図書資料登録	交換図書・雑誌そのほか寄贈図書の登録		-	紀要・図録交換、地域資料収集など
	新聞資料登録	浦幌・十勝関係新聞記事の切り抜き・整理		-	久我ボランティア
	植物標本	浦幌の植物相調査のため植物を採集して標本化する		-	持田学芸員、寄贈資料
	昆虫標本	チョウの採集・標本化		-	荒川ボランティア
保存	資料保存・登録	旧郷土博物館から引き継いだ資料などの保存処理と登録および資料カードの作製と資料情報収集。	通年	-	
	写真資料のデジタル化	プリント原版および写真原版のデジタル化の推進	通年	-	
展示	アイヌ文様刺繍展	浦幌アイヌ協会主催のアイヌ刺繍教室の受講生が製作作品を展示	3月31日 ～4月12日	記帳者117名	浦幌アイヌ協会共催
	収蔵資料展「端午の節句展」	収蔵資料の五月人形等を展示・公開し、こどもの日には撮影会を開催する。	4月16日 ～5月6日	記帳者123名、 記念撮影26名	5月5日 記念撮影会26名
	なつかしの昭和 生活展：火鉢から マッキントッシュ まで	収蔵資料の昭和期生活資料を展示。昭和時代の前期から晩期まで、特に高度経済成長期以後の家電に重点を置いた展示とし、思い出を自由に書いてもらうコーナーも設けた。	5月12日 ～5月29日	記帳者84名	
	絵手紙サークル 15周年記念展	絵手紙サークルが活動開始15周年を迎えたことから、作品を展示	6月2日 ～16日	記帳者144名	絵手紙サークルこぶし共催・浦幌町文化協会後援
	戦争の記憶展	戦後70年にあたり、厚内空襲から70年にもあたる事から、厚内空襲の詳細を中心に戦争関係展示し、第二次世界大戦や平和について考える機会とした	8月1日 ～9月3日	記帳者169名	
	農具展：道具として、 文化財として	今回は浦幌で水田耕作が行われていた時代の農具を中心に展示。クワや豆まき器、扇風機などにも種類があり、その違いを観察してもらうような展示とした。また、これを機会に収蔵資料調査を実施した。	9月12日 ～11月3日	記帳者242名	
	企画展「サロン コーラスとピアノ 教室の歩みから みる浦幌の音楽 文化」	うらほろサロンコーラスと西田ピアノ教室の歩みを、写真、楽譜、プログラム、歌集、衣装などの資料から振り返り、浦幌の文化団体の活動を紹介する。	2月20日 ～3月20日	記帳者	うらほろサロンコーラス・ 西田祐子ピアノ教室共催
	2016年全国 孔版画展	全国の孔版画サークルが製作した年賀状作品を展示	1月18日 ～29日	記帳者82名	うらほろ孔版画サークル 共催
	ひな人形をさがせ！	収蔵するひな人形5点とひな段掛け軸1点を展示室内に分散展示した。	2月13日 ～3月3日	無記名	
	ぷち・ミュージアム展	博物館をより身近に感じていただくための新たな事業。個人がこだわりを持って収集した品物の一部を限られたスペースに凝縮して展示。出品者の思いを伝えていただいている。いずれは、特別展示ホールでの特別企画展に発展させていく。 展示コレクション：ミニボトルコレクション、ノートコレクション、こびどづかんコレクション、ウガンダ雑貨コレクション、うらほろ懐かしコレクション、キーホルダー&テレフォンカードコレクション	随時	寄託資料による	寄託資料による

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
展示	道東の博物館が選ぶイチオシの資料・風景	道東三管内博物館等施設連絡協議会共催	12月5日～1月10日	記帳者120名	
	「浦幌のアンモナイト」	北海道博物館・三笠市立博物館・足寄動物化石博物館共催。	11月28日～1月17日	記帳者120名	
	荘田喜與志とかち帯広の記録展	帯広百年記念館運営連絡協議会の主催による帯広百年記念館所蔵資料の巡回展。	12/5～1/10	記帳:120名	
調査研究		浦幌村役場「教育雑件」翻刻。	通年	三浦直春ボランティア	
	植物生態学	豊北海岸の植物フェノロジー調査		共同研究	
	植物分類地理学	白糠丘陵一帯の植物誌調査、標本収集	通年	共同研究	
	植物生態学	北海道の炭鉱跡地の植生回復に関する研究		共同研究	
	外来生物	町内湖沼のウチダザリガニおよび魚類相調査		共同研究	
	産業史	農業史資料を中心に資料調査を実施			
	地方史	浦幌神社史、浦幌消防史の調査を重点的に実施			
人文地理	町内近代化遺産、産業遺産実態調査				
ボランティア	新聞資料登録	浦幌の記事や博物館に関する記事をカードに張り付け保存する作業	通年		
	物品資料整理	寄贈された物品をクリーニング・修正等			
	物品資料登録	音盤の資料をカード登録			
	企画展示	各企画展示のサポート			
	お茶を飲みながら資料を磨く会	収蔵資料のサビ落としなどの資料保存作業			
	生物調査記録の編集	町内野生生物の情報収集、記録化			
教育普及	学芸員の仕事ってなに？	学芸員の仕事を博物館法、道内や全国の博物館の事例などを紹介し解説した	5月20日	7名	講師 持田学芸員
	博物館の戦争資料	厚内空襲にスポットを当て、どのような記録が残っているか、どのような点が不明確か、博物館として戦争という歴史にどう向き合い取り組んでいくかを参加者と議論	7月15日	7名	講師 持田学芸員
	田んぼの雑草・畑の雑草	雑草の定義、農業と雑草の歴史、代表的な雑草を紹介した他、開催中の農具展について解説した	9月16日	9名	講師 持田学芸員
	近代化遺産ってなに？	世界遺産となった長崎や群馬の産業遺産を紹介しながら、近代化遺産の定義や種類、浦幌でみられる近代化遺産について解説した	10月21日	8名	講師 持田学芸員
	アイヌ文化で遊ぼう	アイヌの民具ムックリを鳴らす体験や、発泡スチロールを用いた鹿ぶえ作りなどを体験する	8月5日	29名	講師 小林真樹
	こどもヒグマの学校	浦幌で実際にヒグマ研究に取り組んでいる酪農学園大学野生動物生態学研究室の大学生たちによる、標本や写真、動画、着ぐるみなどを用いたヒグマの生態の勉強。	8月11日	47名	講師 浦幌ヒグマ調査会
	夏休みこども博物館「チョウを探しに町中めぐろう！！」 ①午前 ②午後	町内に生息するチョウを採集するため、町内のいくつかの地点を巡って昆虫採集を実施。採集個体のいくつかは標本にして、博物館へ登録した。	7月30日	①5名 ②5名	引率 持田誠学芸員 協力 円子紳一

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
教育普及	夏休み子ども博物館「貝の化石を探しに行こう」	厚内のオコッペ川下流で産出される貝類の化石の採集を体験	8月6日	9名	引率 持田誠学芸員
	えんそく博物館「ちょうちょ展を見に行こう」	帯広百年記念館で開催されている企画展「ちょうちょ展」を見学に行き、標本製作などを体験するもの	8月13日	1名	講師 伊藤彩子 引率 持田誠学芸員
	化石のレプリカづくり教室	キットを用いた化石のレプリカ製作や模擬化石発掘体験	1月13日	30名	講師 澤村 寛
	ミニ百年記念館	帯広百年記念館の移動博物館事業による、アカゲラの生態を学ぶ講座を実施	1月15日	29名	講師 伊藤彩子 小林真樹 参加者 29名
	ウチダザリガニってどんなザリガニ？	環境省により特定外来生物に指定されたウチダザリガニが浦幌にも生育している事が確認された事から、その生態や今後の対策などについて、先進的な取り組みを進める美幌の事例を学んだ。	9月20日	9名	講師 町田善康 浦幌の自然を楽しむ会共催
	意外と知らないカラスの身近な生活	もっとも身近な野鳥であるカラスについて、分類や生態、人との関わりの歴史などについて学んだ	12月5日	37名	講師 貞國利夫
	「今」を集める博物館：記録する地域博物館の役割	博物館は過去のものだけではなく、いま使われているものを資料化する役割も持っている事を、小樽市総合博物館の実践から学んだ	1月9日	21名	講師 石川直章
	卒業論文大発表会「浦幌のヒグマこんなに調べました！」	浦幌を含む白糠丘陵一帯で続けられているヒグマの生態研究の成果について、卒業論文の発表会という形で、実際に研究に取り組む大学生・大学院生から直接報告をしてもらい、ヒグマの生態や動向、対策などについて議論した	2月6日	81名	浦幌ヒグマ調査会、酪農学園大学野生動物生態学研究室、中央公民館共催、十勝森林室後援
	浦幌でみつかった最後のアンモナイト	2012年に茂川流布川で発掘された異常まきアンモナイトが北太平洋域で最も新しい絶滅寸前期のアンモナイトである事が判明したことから、	2月8日	32名	講師：栗原憲一 中央公民館共催
	アイヌ工芸品展「木と生きる：アイヌの暮らしと木の造形」を振り返って	アイヌの暮らしに欠かせない木工芸品について展示する企画展を担当した学芸員2名により、展示を通じて明らかになったこと、感じたことなどを対談形式で振り返った。	2月14日	25名	講師 五十嵐聡美 聞き手 持田誠 中央公民館共催
	世代間交流「家族で学ぶ防災」「食べて共に生き抜こう」（和ごころ体験塾）	東日本大震災を学び、防災について学ぶ	3月21日	-	和ごころ体験塾 中央公民館共催
	山菜料理教室	東山森林公園で山菜の見分け方や採集方法を学んだ後、中央公民館調理室で実際に山菜料理を体験する	5月9日	5名	講師：坂下禮子 博物館共催
	アイヌ伝統料理教室	アイヌ文化における伝統料理を、焼き物、鍋物、調味料系の3種5品目の調理体験を通じて学ぶ	12月17日	13名	講師：差間正樹 浦幌アイヌ協会・博物館共催
	まがたまを作ろう	縄文人のアクセサリ・魔除けとされる勾玉を、石から磨き出して製作する体験	11月7日	11名	講師 伊藤彩子 中央公民館共催
	「初心者アイヌ文様刺繍講座」	アイヌ文様刺繍について、その独特の技法を伝承者から学ぶ連続講座	7/13、 14、21	6名	講師 廣川和子 浦幌アイヌ協会共催
	春の草花観察会「ウラボロイチゲを見に行こう」	日本では浦幌で最初に発見された植物ウラボロイチゲの自生地を巡って観察する講座	4月25日	16名	講師 坂下禮子

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考	
教育普及	春の野鳥観察会 「青い鳥を探そう」	夏鳥オオルリの美しい姿を、樹々の葉が茂って観察しづらくなる前の初夏に観察する	5月9日	8名	講師 春日基江	
	「ヤチボウズ大解剖」	浦幌周辺で普通に見られるヤチボウズを割り、内部構造がどうなっているかを詳しく観察する	6月21日	8名	講師 持田学芸員	
	えんそく博物館 「原爆展を見に行こう」	本別町歴史民俗資料館で開催されている企画展「原爆展」と、本別空襲の史跡を巡り、戦後70年の節目に平和を考える	7月25日	7名	講師 持田学芸員	
	「秋の野鳥観察会」	シジュウカラガンをはじめ、タンチョウなど豊北海岸でこの時期みられる野鳥を観察する。	9月27日	3名	講師 春日基江	
	「ヒグマの生態を探る」	ヒグマの生息する山中に出かけて、その痕跡を実際に観察し、ヒグマと人との関わりなどを学ぶ	10月3日	3名	講師 石橋悠樹	
	「浦幌の近代化遺産：レンガ遺構を見て回ろう」	浦幌～直別間に残る根室本線のレンガ構造物（トンネル・鉄橋など）を、片道は実際に列車に乗って観察する。	10月12日	9名	講師 持田誠 全国近代化遺産保存活用連絡協議会共催・北海道教育委員会文化財強調月間共催	
	ハクガンたちは元気かな？	豊北・朝日周辺で、南行する稀少鳥類ハクガンを観察する	11月1日	4名	講師 円子紳一	
	渡り鳥観察会	豊北・朝日周辺で、北行する渡り鳥を観察する	3月29日	7名	講師 春日基江	
	初夏の野鳥観察会	夏鳥や海鳥などを観察する	7月26日		雨天中止	
	「知っとこ浦幌」	浦幌川の上流から下流まで、全町の史跡や文化財を巡り、浦幌町の広さ、環境の多様さ、歴史を学ぶもの	5月10日	5名	講師持田学芸員 中央公民館共催	
	ふるさと探訪： 役場のまわり編	市街地に残る浦幌の歴史の痕跡を、地図や古写真をみながら散策して学ぶ	6月13日		雨天中止	
	ふるさと探訪： 駅前編	市街地に残る浦幌の歴史の痕跡を、地図や古写真をみながら散策して学ぶ	7月18日	29名	講師持田学芸員 中央公民館共催	
	ふるさと探訪： 列車に乗ろう編	市街地に残る浦幌の歴史の痕跡を、列車の車窓から観察して学ぶ	8月8日	4名	講師持田学芸員 中央公民館共催	
	豊北海岸自然観察会	豊北海岸に生育する植物の移り変わり（フェノロジー）を記録する調査型観察会	6/6～ 10/3 (全5回)	11名	講師持田学芸員	
	ロビーコンサート	収蔵資料レコードコンサート		5/2～ 11/28 (全4回)	30名	
		USC浦幌青少年コーラス 夕涼みコンサート		8月1日	出演者 16名 参加者 35名	中央公民館、浦幌青少年コーラス共催
		ブックトーク&レコードコンサート： 博物館のレコードコンサートと図書館のブックトークを組み合わせたもの。ブックトークのテーマに合わせたレコードをかけるよう心がける。		12月19日、 1月16日、 2月20日、 3月19日	延べ9名	図書館共催
		うらほろサロンコーラス「春のうた」：企画展関連時業としてうらほろサロンコーラスにより実際		3月12日		うらほろサロンコーラス・西田祐子ピアノ教室共催
	レファレンス	郷土史・考古学・地質・自然等についての問い合わせ、資料紹介、資料調査に対応する。	随時	通年		
	講師派遣	北海道教育大学釧路講巡検		5月1日	22名	
高砂会（浦幌町）			5月21日	16名		
出先おびひろ会			6月2日	24名		

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
教育普及	講師派遣	広尾町朝日町町内会	6月14日	21名	
		帯広YMCA	6月20日	17名	
		浦幌小学校2年生	6月25日	20名	
		帯広広西親和会	6月26日	32名	
		十勝母子寡婦連合会幹部研修会	7月26日	46名	
		浦幌中学校 3年生 理科	9月8日	26名	
		浦幌中学校 2年生 職場体験実習	10月7日	2名	
		浦幌小学校 6年生 理科	10月14日	36名	
		豊頃小学校 6年生 理科	10月16日	36名	
		F Mウイング 「サタディクーン つながり図鑑」	10月31日		ラジオ出演
		浦幌中央寿大学	12月11日	40名	
		浦幌小学校3学年 社会科	2月17日	26名	
		ニセコ町有島記念館	7月3~4日	30名	
		帯広アイヌ協会講習会	9月19日	40名	
		帯広市地域マイスター講座	10月29日	25名	
		めむろ歴史探訪会	11月20日	20名	
		湿原研究所セミナー	12月12日	11名	
本別町歴史民俗資料館講座	1月30日	18名			
会議・研修等	博物館協議会の開催	浦幌町立博物館の運営に関する館長諮問機関	5月21日、8月29日、3月23日実施		
	帯広百年記念館運営連絡協議会	帯広百年記念館の活用をはかる十勝管内全市町村の協議体。共同展示など各種事業実施	協議会は6月4日。ほか実務随時		
	道東3管内博物館施設等連絡協議会	総会は5月21日(釧路市立博物館)。研修会(上士幌町ひがし大雪自然館)10月4-5日開催。共同展示など事業実施	随時		
	東十勝ロングトレイル協議会	浦幌・豊頃の自然や産業・歴史を生かした新たな散策ルート開発	随時		
	浦幌町着地型観光推進委員会	浦幌町の着地型観光ルート開発に伴う研究	随時		
	浦幌町フォトコンテスト審査委員会	商工会主催フォトコンテストの審査委員	随時		
	広葉樹資源育成等検討会議	浦幌地区道有林の広葉樹資源活用に関する十勝総合振興局森林室主催の会議	1月7日		
	北海道博物館協会	北海道内の博物館の連携・振興をはかる協議体。第54回北海道博物館大会(北海道博物館)出席	7月10日~11日		
	北海道博物館協会学芸職員部会	全道の学芸職員の連合組織。総会(士別市立博物館)に出席	9月25~26日		
	十勝管内学芸職員等協議会	動物園、美術館を含む十勝管内の全学芸職員の連合組織	随時		
	平成27年度アイヌ工芸品展企画委員会	アイヌ文化振興・研究推進機構主催によるアイヌ工芸品展開催に係る企画委員会および展示の設営(札幌市、埼玉県入間市、旭川市)	6月1日~1月30日随時		
	平成27年度アイヌ文化財専門職員等研修会	アイヌ文化財担当の学芸員、文化財職員を対象とした道庁主催による研修会	2月26日		
研究者等受入	日本大学・酪農学園大学	ヒグマ生態研究	随時		
	上越教育大学	貝化石研究	随時		
	個人研究者	貝化石研究	随時		
	三笠市立博物館	アンモナイト研究	随時		

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
研究者等受入	帯広百年記念館	漂着物・古文書調査	随時		
	名古屋大学博物館	在来タンポポ、雑種タンポポの進化生態学	随時		
	標津町ポー川史跡・自然公園	十勝太海岸段丘遺跡出土鉄器地金成分分析	随時		
	熊本大学	シロスミレ、トヨコロスミレの分子系統解析	随時		
	熊本大学	共栄B遺跡出土資料調査	随時		
	北海道大学	十勝太一帯のチャシ研究	随時		
	個人研究者	十勝太若月遺跡出土品調査	11月		
	日本甜菜製糖株式会社	厚内製塩工場史に関する調査	12月～1月		
	札幌市博物館活動センター	ヤチボウズ調査	6月		
	北海道教育大学釧路校	地域づくり研究	随時		

V. 博物館の事業



PL.1 移動博物館  
「春の草花観察会：  
ウラボロイチゲを見に行  
こう（講師：坂下禮子氏）」  
(H27.4.25)

PL.2 移動博物館  
「青い鳥を探そう！  
（講師：トリおばさん）」  
(H27.5.9)



PL.3 博物館講座  
「ヤチボウズ大解剖」  
(H27.6.21)

PL.4 えんそく博物館講座  
「原爆展を見に行こう」  
(H27.7.25)





PL.5 USC浦幌青少年コーラス  
「夕涼みコンサート」  
(H27.8.1)

PL.6 夏休み子ども博物館  
「貝の化石を探しに行こう」  
(H27.8.6)



PL.7 夏休み子ども博物館  
「子どもヒグマの学校  
〔講師：酪農学園大学  
野生動物生態学研究室〕」  
(H27.8.11)

PL.8 夏休み子ども博物館  
「ちょうちょ展を見に行こう」  
(H27.8.13)



V. 博物館の事業



PL.9 月例調査観察会  
「豊北植物調査会  
〔毎月第1土曜日開催〕」  
(H27.9.5)

PL.10 入館者15万人達成  
(H27.9.5)



PL.11 夜学講座  
「田んぼの雑草、  
畑の雑草」  
(H27.9.16)

PL.12 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「ウチダザリガニってど  
んなザリガニ?〔講師:  
美幌博物館 町田善康  
学芸員〕」  
(H27.9.20)





PL.13 移動博物館  
「ハクガンたちは元気  
かな？〔講師：トリお  
ばさん〕」  
(H27.11.1)



PL.14 移動博物館  
「ヒグマの生態を探る  
〔講師：石橋悠樹氏〕」  
(H27.10.3)



PL.15 浦幌中学校職場体験学習  
(H27.10.7)



PL.16 移動博物館  
「浦幌の近代化遺産：  
レンガ遺構を見て回ろう」  
(H27.10.12)

V. 博物館の事業



PL.17 出前授業  
「地層の観察（浦幌小  
学校）」  
(H27.10.14)

PL.18 東十勝ロングトレイル  
「山のルート：旧浦幌  
炭砦から留真温泉」  
(H27.10.17)



PL.19 帯広百年記念館出前講座  
「まがたまを作ろう（講師：  
伊藤彩子学芸員）」  
(H27.11.7)

PL.20 中央公民館講座  
「アイヌ伝統料理教室」  
(H27.12.17)





PL.21 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「意外と知らない身近なカラスの生活  
〔講師：釧路市立博物館 貞國利夫学芸員〕  
(H27.12.5)

PL.22 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「今を集める博物館：  
記録する地域博物館の  
役割〔講師：小樽市総  
合博物館 石川直章学  
芸員・館長〕  
(H28.1.9)



PL.23 卒業論文大発表会  
「浦幌のヒグマこんなに  
調べました！  
〔講師：酪農学園大学、  
帯広畜産大学の大学  
生・大学院生〕  
(H28.2.6)

PL.24 浦幌中学校特別授業  
「浦幌のアンモナイト  
〔講師：北海道博物館  
栗原憲一学芸員〕  
(H28.2.8)





PL.25 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「浦幌のアンモナイト  
〔講師：北海道博物館  
栗原憲一学芸員〕  
(H28.2.8)

PL.26 うらほろスタイルゼミ  
ナール  
「木と生きる：アイヌ  
の暮らしと木の造形展  
をふりかえって〔講師：  
北海道立帯広美術館  
五十嵐聡美学芸員〕  
(H28,2.14)



PL.27 浦幌サロンコーラス  
「春のうた」  
(H28.3.12)

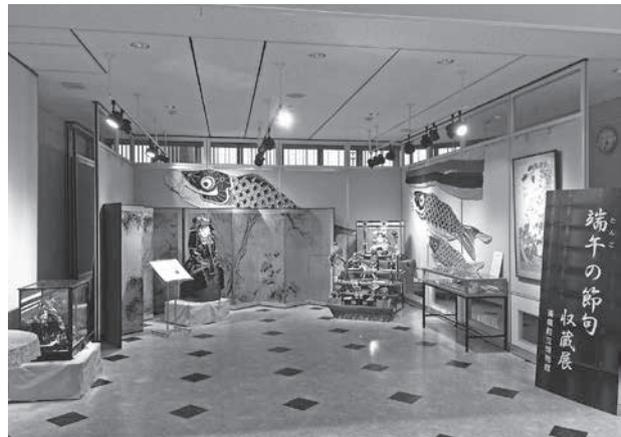
PL.28 博物館ボランティア  
「お茶を飲みながら資  
料を磨く会〔毎月1回  
祝日に開催〕  
(H28.2.11)





PL.29 博物館・図書館共催  
「ブックトーク&レコードコンサート〔毎月第3土曜日開催〕」

PL.30 企画展  
「端午の節句展」  
(H27.4.16~5.6)



PL.31 企画展  
「農具展：道具として、文化財として」  
(H27.9.12~11.3)

PL.32 企画展  
「浦幌のアンモナイト」  
(H27.11.28~28.1.17)



V. 博物館の事業



PL.33 帯広百年記念館移動展  
「荘田喜與志〔とち  
帯広の記録〕写真展」  
(H27.12.5~28.1.10)

PL.34 企画展  
「ひな人形をさがせ！」  
(H28.2.13~3.3)



PL.35 企画展  
「サロンコーラスとピ  
アノ教室の歩みからみ  
る浦幌の音楽文化」  
(H28.2.20~3.20)

PL.36 プチ・ミュージアム  
「ミニボトルコレクシ  
ョン」  
(H27.4.22~5.31)



## VI. 出版・広報活動

- 『浦幌町立博物館年報』第16号発行（2015年11月30日）
- 『浦幌町立博物館紀要』第16号発行（2016年3月31日）
  - ・論文、資料紹介6編を掲載
  - ・第16号より国際逐次刊行物番号（ISSN）を付与（ISSN 2189-4787）
  - ・年報と共に全国の主な大学、博物館、図書館へ発送。
- 『浦幌町立博物館だより』発行（毎月1日発行）
  - ・町内および十勝・釧路管内の主な博物館、図書館等で配付。PDF版をホームページにて公開。
- 『広報うらほろ』に「博物館の窓」を連載（2015年6月号より連載開始）

## VII. レファレンス業務

2015年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

### <人文・社会科学分野>

- 浦幌発祥の地について
- 浦幌炭砦の歴史について
- 浦幌の鉄道遺産について
- 根室本線の歴史と近代化遺産について
- 厚内の製塩工場について
- 浦幌での馬産について
- 農具アイカケについて
- 十勝監獄と浦幌の開拓との関係について
- 浦幌の馬頭観音について
- 医師中村茂について
- 昭和三十年代の浦幌市街地について
- 謡本について
- 十勝鉄道の歴史と保存資料について
- 尺別炭砦について
- ヤマノカミ信仰について
- 浦幌のアイヌ語地名について
- 十勝太遺跡について
- 共栄B遺跡および出土品について
- オタフンベチャシについて

### <自然科学分野>

- ウラホロイチゲについて
- トヨコロスミレについて
- 渡り鳥の飛来時期と種類について
- ヒグマの分布・生態について
- 植物名問い合わせ
- 昆虫名問い合わせ
- 十勝海岸の砂嘴について

## VIII. 博物館ボランティア

- 海岸草原の維持機構について
- 浦幌町周辺で産出される貝化石について
- K/Pg境界層について
- ウチダザリガニの分布と現状について
- 白糠丘陵の植物相について
- アンモナイトについて
- 豊北海岸の蜃気楼について
- ハマナスの生態について
- 浦幌の火山灰について

### <文化財・博物館制度・博物館学について>

- 文化財保護法について
- 博物館法と学芸員制度について
- 道東の博物館史について
- 民具の保存と手入れについて
- 資料台帳と目録の整備状況について
- レコードの保存と活用状況について
- 古写真の保存方法について
- 学芸員の任用方法や博物館実習について
- 博学連携事業について

## VIII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は9名であるが、日常的に活動している者は5名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第16号に掲載した。

### ●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	4	5	4	3	2	2	2	2	4	9	3	3	43
延人数	12	12	15	11	11	14	14	12	18	22	19	18	178

### ●博物館ボランティア登録者

北町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	栄町	橋本 友子	宝町	佐藤 明美
十勝太	市川 藤子	万年	坂下 禮子	南町	荒川 和子	北栄	円子 紳一
東山町	井上 牧子	東山町	北村 幸子	本町	久我サトエ		

## IX. 博物館日誌（抄）

## 平成27年

- 4月1日(水) 町辞令交付式。教育委員会辞令交付式。公民館長辞令交付式。  
鈴木広館長、持田誠学芸員着任。  
上浦幌公民館長鈴木信男氏、厚内公民館長古畑氏、吉野公民館長道政氏、奥田珠美氏、三浦直春氏、宮崎一市氏来館。
- 4月2日(木) 円子紳一氏、浦幌印刷高室氏来館。
- 4月4日(土) 山中好子氏、佐藤芳雄氏来館。
- 4月6日(月) 円子紳一氏来館。
- 4月7日(火) HBCフレックス立石健児氏他1名、奥田珠美氏来館。
- 4月8日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、佐藤芳雄氏、円子紳一氏、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏来館。高砂会金川氏、見学依頼のため来館。
- 4月9日(木) 円子紳一氏来館。福澤利一氏ぷちミュージアム打合せのため、北海道新聞帯広支社諸橋弘平氏ハクガン状況等のため、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏K-T境界について取材、写真撮影のため来館。
- 4月10日(金) 円子紳一氏、山宮喬也氏夫妻、中央寿大学受講生6名来館。
- 4月13日(月) 円子紳一氏、絵手紙サークル森ひろ子氏、(株)杉浦石垣論臣氏、奥田珠美氏来館。
- 4月14日(火) 円子紳一氏、大谷美保氏、奥田珠美氏、垂水美喜子氏来館。畑中政子氏、ぷちミュージアム相談のため来館。
- 4月15日(水) 佐藤芳雄氏、奥田珠美氏他3名、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 4月16日(木) 橋本ひろ子氏、代理寄贈のため来館。標津町ポー川史跡自然公園小野哲也氏、土本伸重氏、佐藤芳雄氏、高室智全氏、高田雅行氏来館。
- 4月17日(金) しらかば保育園団体見学。福澤利一氏、円子紳一氏、坂下禮子氏、上浦幌中央小学校教諭佐藤陽子氏、酪農学園大学野生動物生態学研究室渡辺哲平氏、谷洗哉氏、栗木隼大氏、深見峻甫氏、石橋悠樹氏来館。
- 4月18日(土) 円子紳一氏、取材のため来館。
- 4月20日(月) 酒井清氏、崎田忠道氏、経堂岩夫氏、村瀬政昭氏、松田勇氏、三浦直春氏来館。
- 4月21日(火) 円子紳一氏、地域おこし協力隊森彩花氏、ノースプロダクション近江正隆氏、十勝毎日新聞本社塩原真氏、佐藤芳雄氏来館。
- 4月22日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、井上牧子氏来館。
- 4月23日(木) 佐藤芳雄氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、学芸員記事取材のため来館。
- 4月25日(土) ミニ移動講座「植物編」開催。森林総合研究所大谷雅人氏、円子紳一氏来館。
- 4月27日(月) 宮崎一市氏、帯広百年記念館小林真樹氏来館。
- 4月28日(火) 佐藤芳雄氏、円子紳一氏、井上清和氏、菅谷明氏、釧路動物園吉野智生氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 4月29日(水) 宮崎一市氏来館。
- 5月1日(金) 北海道教育大学釧路校団体見学。北海道教育大学釧路校宮前耕史氏他22名、菅谷明氏、佐藤芳雄氏、近江正隆氏、円子紳一氏来館。
- 5月2日(土) 帯広市教育委員会文化課土田和世氏、パピロフレンズ三浦将宏氏、酪農学園大学佐藤喜和氏、米澤喜八郎氏、円子紳一氏来館。
- 5月5日(火) 端午の節句記念撮影会。
- 5月9日(土) ミニ移動講座「青い鳥を探そう」開催。和歌山県山草写真家瀧野幸紀氏、宮崎一市氏来館。
- 5月10日(日) うらほろスタイルゼミナール「知つとこ浦幌」開催。
- 5月12日(火) なつかしの昭和生生活展。(～5/29)
- 5月13日(水) 東十勝ロングトレイル推進協議会。うらほろ観光おもてなし協議会。  
奥田珠美氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 5月14日(木) 円子紳一氏、戸張良彦氏来館。
- 5月16日(土) 教職員「ふるさと移動研修会」開催。K-Pg層巡検。
- 5月19日(火) 円子紳一氏来館。コピーライター鶴見裕子氏、取材のため来館。
- 5月20日(水) うらほろスタイルゼミナール「学芸員のしごと」ってなに？開催。

- 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、小さな鉄道博物館穂積規氏、円子紳一氏、笹又博史氏来館。  
5月21日(木) 高砂会(浦幌町)団体見学。持田学芸員、道東三管内博物館施設等連絡協議会(釧路市)出席。
- レコードコンサート開催。小林信子氏、米澤氏資料寄贈関係のため来館。  
5月23日(土)  
5月26日(火) 宮崎一市氏、米澤喜八郎氏来館。戸張良彦氏チャン調査のため、井上清和氏化石調査のため、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏取材のため来館。
- 十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏、取材のため来館。円子紳一氏来館。  
5月27日(水)  
5月28日(木) 小林信子氏、米澤氏関係資料のため来館。室崎規矩子氏来館。  
5月29日(金) 博物館協議会。高橋悦子氏来館。  
5月31日(日) 持田学芸員、アイヌ機構会議(札幌市)出席。(～6/1)  
6月1日(月) 学童団体見学。森ひろ子氏、円子紳一氏来館。  
高橋慎館長着任。
- 絵手紙サークル展示。(～6/16) 出先おびひろ会団体見学。円子紳一氏来館。奥田珠美氏、初心者アイヌ刺繍講座打合せのため来館。  
6月2日(火)
- 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。  
6月3日(水)
- 帯広百年記念館運営連絡協議会。奥田珠美氏、打合せのため来館。  
6月4日(木)
- 佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。  
6月5日(金)
- 豊北海岸自然観察会開催。ぶちミュージアム「ノート」展示。(～7/5)  
6月6日(土)
- 橋本ひろ子氏来館。  
6月8日(月)
- 持田学芸員、釧路市博物館へ出張。橋本ひろ子氏来館。  
6月9日(火)
- 円子紳一氏、春日基江氏来館。  
6月10日(水)
- 円子紳一氏、宮川一枝氏来館。  
6月11日(木)
- 橋本ひろ子氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏、高橋悦子氏来館。  
6月12日(金)
- ふるさと探訪「博物館編」雨天により中止。佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。  
6月13日(土)
- 広尾町朝日町内会団体見学。  
6月14日(日)
- 鹿野久司氏、円子紳一氏来館。  
6月15日(月)
- 佐藤芳雄氏、円子紳一氏、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏来館。  
6月16日(火)
- 宮崎一市氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、井上牧子氏、奥田珠美氏来館。  
6月17日(水)
- 宮崎一市氏、浦幌小学校教諭仲野公章氏来館。  
6月18日(木)
- 持田学芸員、帯広百年記念館へ出張。円子紳一氏、坂下禮子氏、大谷美保氏、荒川和子氏来館。  
6月19日(金)
- 帯広YMC A団体見学。熊本大学埋蔵文化財センター大坪志子氏、共栄B遺跡視察のため来館。文化庁文化財部記念物課水ノ江和同氏、酪農学園大学石橋悠樹氏他6名来館。  
6月20日(土)
- ヤチボウズ大解剖！開催。札幌市博物館活動センター山崎真実氏、釧路市立博物館加藤ゆき恵氏来館。  
6月21日(日)
- 外務省北方四島野生動物植物専門家受入事業情報交換会。宮崎一市氏、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏、十勝毎日新聞通信員円子紳一氏来館。  
6月22日(月)
- 円子紳一氏来館。  
6月23日(火)
- 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、坂下禮子氏来館。  
6月24日(水)
- 浦幌小学校2年生団体見学。坂下禮子氏、円子紳一氏来館。  
6月25日(木)
- 持田学芸員、全日本博物館学会(京都府)出席。(～6/29) 帯広広西親和会団体見学。佐藤芳雄氏、北方山草会五十嵐博氏来館。  
6月26日(金)
- 本別町教育委員会団体見学。  
6月28日(日)
- 円子紳一氏、十勝寡婦連合会尾谷京子氏、横田民代子氏、奥田珠美氏来館。  
6月30日(火)
- 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、高田雅行氏、三浦智氏来館。  
7月1日(水)
- 持田学芸員、帯広百年記念館打合せ。鳥取県西部町教育委員会団体見学。宮崎一市氏、円子紳一氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、春日基江氏来館。  
7月2日(木)
- 円子紳一氏、春日基江氏来館。  
7月3日(金)
- 持田学芸員、有島記念館(ニセコ町)へ出張。  
7月4日(土)
- 持田学芸員、大谷短大講義。  
7月6日(月)
- 佐藤芳雄氏、西田祐子氏、同級生の会有坂一子氏、川畑スエ子氏、藤井栄子氏、室崎規矩子氏、武藤多賀子氏、円子紳一氏来館。  
7月7日(火)
- 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、坂下禮子氏来館。  
7月8日(水)
- 持田学芸員、帯広美術館へ出張。宮崎一市氏、菅谷明氏、福原仁子氏来館。  
7月9日(木)

- 7月10日(金) 持田学芸員、北海道博物館協会（札幌市）出席。（～7/11）佐藤芳雄氏、ジェンキンス・ロバート氏他3名来館。
- 7月12日(日) 豊北海岸自然観察会。高橋達夫氏、和子氏来館。
- 7月13日(月) 初心者アイヌ文様刺繍講座①。北海道教育委員会視察。北海道新聞記者安倍友紀子氏、展示室取材のため来館。
- 7月14日(火) 初心者アイヌ文様刺繍講座②。宮崎一市氏、円子紳一氏、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏、丹青社森富広氏来館。
- 7月15日(水) 夜学講座「博物館の戦争資料」開催。飛田辰章氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、坂下禮子氏、(有)ストーク宮沢強氏来館。
- 7月16日(木) 佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。
- 7月17日(金) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、NHK帯広放送局高田美樹氏、春日基江氏来館。
- 7月18日(土) ふるさと探訪（駅前編）開催。レコードコンサート開催。
- 7月21日(火) 初心者アイヌ文様刺繍講座③。
- 7月22日(水) 上浦幌公民館長鈴木信男氏、三浦智氏来館。
- 7月25日(土) えんそく博物館「原爆展を見に行こう」開催。
- 7月26日(日) 初夏の野鳥観察会雨天により中止。持田学芸員、講師として十勝地区母子寡婦連合会幹部研修会出席。
- 7月27日(月) 岩田彰氏、円子紳一氏来館。
- 7月28日(火) NHKプラネット高島聰氏、NHK帯広放送局高田美樹氏、円子紳一氏来館。
- 7月29日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、高田雅行氏、奥田珠美氏来館。
- 7月30日(木) 蝶を探しに町中めぐろう開催。円子紳一氏来館。
- 7月31日(金) 酪農学園大学佐藤喜和氏他8名、円子紳一氏来館。
- 8月1日(土) 豊北海岸自然観察会。夕涼みコンサート開催。
- 8月3日(月) 東部四町校長・教頭研修会団体見学。円子紳一氏来館。
- 8月4日(火) 奥田珠美氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、三浦智氏、NHK帯広放送局高田美樹氏他2名、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏来館。NHKプラネット高島聰氏、取材のため来館。
- 8月5日(水) アイヌ文化で遊ぼう！開催。帯広百年記念館小林真樹氏、講師のため来館。奥田珠美氏、円子紳一氏来館。
- 8月6日(木) 貝の化石を探そう開催。円子紳一氏、コレット・イングリッシュ氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、宮崎一市氏来館。
- 8月7日(金) 円子紳一氏、宮崎一市氏来館。
- 8月8日(土) ふるさと探訪（列車編）開催。
- 8月11日(火) ヒグマの学校開催。酪農学園大学深見峻甫氏、金澤周平氏、朝倉寿大氏、石橋悠樹氏、塚野萌美氏、加藤亜友美氏ヒグマの学校講師のため来館。円子紳一氏、上越教育大学天野和孝氏、金沢大学ジェンキンス・ロバート氏来館。
- 8月12日(水) 佐藤芳雄氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 8月13日(木) 「ちょうちょ展」を見に行こう開催。円子紳一氏、森啓之介氏、小島草平氏、酪農学園大学生6名、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏来館。
- 8月14日(金) 円子紳一氏、空るみ子氏来館。地域おこし協力隊畠山裕恵氏、ぷちミュージアム打合せのため来館。
- 8月18日(火) 円子紳一氏、宮崎一市氏来館。
- 8月19日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 8月20日(木) 円子紳一氏、奥田珠美氏、佐藤芳雄氏来館。
- 8月21日(金) 猟友会佐藤芳雄氏、野口昌靖氏、ネイパルあしよる熊谷圭志氏、鈴木由市氏、西田祐子氏、井下まさの氏来館。
- 8月22日(土) レコードコンサート開催。
- 8月23日(日) 持田学芸員、埼玉県入間市立博物館へ出張。（～8/26）
- 8月24日(月) 奥田珠美氏来館。
- 8月25日(火) 東栄堂高田雅行氏来館。
- 8月26日(水) 奥田珠美氏、井上牧子氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、福澤利一氏来館。
- 8月27日(木) 佐藤喜和氏、円子紳一氏、春日基江氏来館。
- 8月28日(金) 円子紳一氏、酪農学園大学伊藤正義氏、村上晴花氏、谷洗哉氏、石橋悠樹氏、石狩ガラスセンター幸田安充氏、丹青社真鍋達矢氏来館。
- 8月29日(土) 円子紳一氏、春日基江氏、宮崎一市氏、酪農学園大学生3名来館。

IX. 博物館日誌（抄）

- 8月31日(月) 佐藤芳雄氏、地域おこし協力隊畠山裕恵氏来館。  
9月1日(火) 円子紳一氏、宮崎一市氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏来館。  
9月2日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。  
9月3日(木) 久我サトエ氏来館。  
9月4日(金) トカプチアイヌ協会笹村六男氏、円子紳一氏来館。地域おこし協力隊森彩花氏、打合せのため来館。  
9月5日(土) 豊北海岸自然観察会。入館者数15万人達成セレモニー。  
北海道教育大学岩見沢校坂巻正美氏、北村氏ご一家（4名）来館。  
9月8日(火) 浦幌中学校町内魅力発見バスツアー。持田学芸員講師。奥田珠美氏、円子紳一氏、坂下哲哉氏禮子氏、酪農学園大学鈴木輝氏、栗木隼大氏来館。  
9月9日(水) 持田学芸員、東十勝ロングトレイル担当者会議（豊頃町）出席。  
大同出版紙業(株)藤井陸香氏、東栄堂高田雅行氏来館。  
9月10日(木) 宮崎一市氏、齊藤ゆき枝氏来館。  
9月11日(金) 室崎規矩子氏、円子紳一氏来館。  
9月12日(土) 農具展「道具として、文化財として」（～11/3）北海道新聞帯広報道部小森美香氏来館。  
9月14日(月) 奥田珠美氏、帯広百年記念館小林真樹氏、福原仁子氏来館。  
9月15日(火) 円子紳一氏、酪農学園大学渡辺哲平氏、塚野萌美氏、深見峻甫氏、朝倉寿大氏、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏来館。  
9月16日(水) 夜学講座「田んぼの雑草、畑の雑草」開催。幕別町ふるさと館事業委員会島村重雄氏、松浦佑司氏、森廣幸氏、宮崎一市氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、久保誠司氏来館。  
9月18日(金) 帯広市つつじがおか生涯学習推進委員会団体見学。福澤利一氏、十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏来館。  
9月20日(日) うらぼろスタイルゼミナール「ウチダザリガニ」開催。美幌博物館町田善康氏、釧路総合振興局高橋克巳氏来館。  
9月24日(木) 持田学芸員、学芸職員部会（士別市）出席。（～9/26）  
9月25日(金) 円子紳一氏来館。  
9月27日(日) 秋の野鳥観察会、レコードコンサート開催。洋野町関係者団体見学。  
9月28日(月) 定例教育委員会。  
9月29日(火) 定例校長会。楯省造氏、円子紳一氏、奥田珠美氏来館。  
9月30日(水) 浦幌高校一期生同窓会団体見学。円子紳一氏、地域おこし協力隊畠山裕恵氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、東栄堂高田雅行氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏来館。  
10月1日(木) 熊谷圭志氏、室崎規矩子氏、円子紳一氏来館。  
10月2日(金) 浦幌ヒグマ調査会4名来館。  
10月3日(土) 豊北海岸自然観察会。ヒグマの生態を探る開催。酪農学園大学石橋悠樹氏、船戸恵太氏、大笹健郎氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、武藤満雄氏来館。  
10月4日(日) 持田学芸員、道東三管内博物館施設等協議会（ひがし大雪自然館）出席。  
杉本明氏来館。  
10月5日(月) 川原昭良氏、奥田珠美氏、西田祐子氏来館。  
10月6日(火) アイヌ上級刺繍講座。奥田珠美氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、アイヌ協会差間正樹氏来館。  
10月7日(水) 浦幌中学校職場体験。アイヌ上級刺繍講座。商工会会議。桐山星夜君、金澤明香里さん職場体験のため来館。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、十勝毎日新聞通信員円子紳一氏、北村敦子氏来館。  
10月8日(木) 桐山星夜君、金澤明香里さん職場体験のため来館。円子紳一氏、東栄堂高田雅行氏来館。  
10月9日(金) 円子紳一氏来館。  
10月10日(土) 伊東応用植物研究所伊東捷夫氏、奥山雄大氏、帝京大学國崎久志氏、北日本文化研究所藤村久和氏、花輪陽平氏、円子紳一氏来館。  
10月11日(日) 持田学芸員ディスカバー・アース（ネイバル足寄）講師のため出張、北海道大学チャシ跡調査同行。北海道大学アイヌ・先住民研究センター蓑島栄紀氏、安藤匡孝氏来館。  
10月12日(月) 近代化遺産「レンガ遺構見学」開催。遠藤龍敏氏、関川修司氏来館。  
10月13日(火) アイヌ上級刺繍講座。  
10月14日(水) アイヌ上級刺繍講座。浦幌小学校6年理科学習。持田学芸員指導のため同行。  
芽室町寿会団体見学。円子紳一氏来館。  
10月15日(木) 荒川和子氏、円子紳一氏、(旧)十勝毎日新聞池田支局長井上朋一氏、(新)十勝毎日

- 新聞池田支局長末次一郎氏来館。
- 10月16日(金) 豊頃小学校6年理科学習。持田学芸員指導のため同行。
- 10月17日(土) 大樹町柏木町内会団体見学。持田学芸員、ロングトレイル（留真、炭山）講師として出席。
- 10月18日(日) 持田学芸員、帯広市近代化遺産一斉公開事業講師として出席。
- 10月19日(月) 井上清和氏、奥田珠美氏来館。
- 10月20日(火) アイヌ上級刺繍講座。定例校長会。東栄堂高田雅行氏、武藤満雄氏、HBCフレックス立石健児氏、円子紳一氏来館。
- 10月21日(水) アイヌ上級刺繍講座。夜学講座「近代化遺産ってなに？」開催。円子紳一氏、武藤満雄氏、宮崎一市氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 10月22日(木) 定例教頭会。酪農学園大学石橋悠樹氏来館。
- 10月23日(金) 年金者組合芽室支部、学童団体見学。円子紳一氏、中村剛氏来館。
- 10月24日(土) 商工会野鳥観察講師、雨天により中止。
- 10月26日(月) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 10月27日(火) アイヌ上級刺繍講座。
- 10月28日(水) アイヌ上級刺繍講座。円子紳一氏、宮崎一市氏、桃井美智子氏来館。
- 10月29日(木) 持田学芸員、帯広地域マイスター講座出席。佐藤芳雄氏、円子紳一氏、浦幌印刷高室氏来館。
- 10月30日(金) 定例教育委員会。宮崎一市氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。
- 10月31日(土) 持田学芸員、FM Wing（帯広市）出演。
- 11月1日(日) 渡り鳥観察会「ハクガンたちは元気かな？」開催。
- 11月4日(水) 北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、円子紳一氏、高室智全氏、和田料一郎氏来館。
- 11月5日(木) 円子紳一氏、酪農学園大学生5名来館。
- 11月6日(金) 酪農学園大学実習。（～11/8）持田学芸員指導。円子紳一氏来館。
- 11月7日(土) まがたま作り教室開催。
- 11月8日(日) 持田学芸員、企画展示資料受取のため中標津町へ出張。（～11/9）
- 11月11日(水) 持田学芸員、東十勝ロングトレイル担当者会議（豊頃町）出席。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、ソーゴ印刷加納靖宏氏、円子紳一氏、井上牧子氏来館。
- 11月12日(木) 道東3管内パネル展開催。（～11/26）北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、パネル展取材のため来館。円子紳一氏来館。
- 11月13日(金) 佐藤芳雄氏、岩田章氏、釧路総合振興局高橋克巳氏来館。
- 11月14日(土) 持田学芸員、アート・ドキュメンテーション学会第8回秋季研究発表会（東京都）出席
- 11月16日(月) 持田学芸員、道立旭川美術館へ出張。（～11/18）北海道教育大学釧路校伊藤樹梨藍氏、佐藤将太郎氏来館。
- 11月17日(火) アイヌ上級刺繍講座。円子紳一氏、企画展取材のため来館。差間正樹氏昭子氏、(株)杉浦石垣論臣氏、中島とよ子氏、佐藤芳雄氏来館。
- 11月18日(水) アイヌ上級刺繍講座。川内和博氏、上土幌町ひがし大雪乙幡康之氏ご一家来館。
- 11月19日(木) 定例校長会議。東栄堂高田雅行氏、三浦直春氏来館。
- 11月20日(金) 持田学芸員、めむろ歴史探訪会講演のため出張。円子紳一氏、酪農学園大学石橋悠樹氏、坂下禮子氏来館。
- 11月21日(土) 東十勝ロングトレイル団体見学。
- 11月24日(火) 佐藤喜和氏、佐藤芳雄氏来館。
- 11月25日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、十勝毎日新聞池田支局長末次一郎氏、宮崎一市氏来館。
- 11月26日(木) 北海道大学アイヌ・先住民センター、美瑛町教育委員会団体見学。佐藤芳雄氏、円子紳一氏、アイヌ・先住民センター北原次郎太氏来館。
- 11月27日(金) 円子紳一氏、ぶちミュージアム取材のため来館。宮崎一市氏、差間正樹氏来館。
- 11月28日(土) 浦幌のアンモナイト展。（～1/17）
- 11月29日(日) レコードコンサート開催。
- 11月30日(月) 避難訓練実施。円子紳一氏、(株)杉浦石垣論臣氏来館。
- 12月1日(火) アイヌ上級刺繍講座。商工会会議。円子紳一氏、差間正樹氏来館。
- 12月2日(水) アイヌ上級刺繍講座。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、十勝孔版面の会代表千葉定是氏、円子紳一氏、北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、差間正樹氏来館。
- 12月3日(木) 円子紳一氏来館。
- 12月4日(金) 円子紳一氏、森林室土田章氏、帯広百年記念館長北沢実氏来館。

IX. 博物館日誌 (抄)

- 12月5日(土) 百年記念館巡回展「荘田喜與志」開催。(～1/10) うらほろスタイルゼミナール「意外と知らないカラスの生活」開催。釧路市立博物館貞國利夫氏、武藤満雄氏、千嶋淳氏来館。
- 12月7日(月) 小山妙子氏、佐藤芳雄氏、中村剛氏来館。
- 12月8日(火) 上浦幌公民館長鈴木信男氏、浦幌小学校教諭沼田圭介氏、円子紳一氏、(株)杉浦石垣諭臣氏来館。
- 12月9日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 12月10日(木) 宮崎一市氏、地域おこし協力隊森彩花氏、高室智全氏、円子紳一氏来館。
- 12月11日(金) 持田学芸員、中央寿大学講師。円子紳一氏来館。
- 12月15日(火) 日本野鳥の会十勝支部千嶋淳氏、千嶋夏子氏、円子紳一氏来館。
- 12月16日(水) 夜学講座「荘田写真展からわかること」開催。商工会ロングトレイル会議。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 12月17日(木) 初心者アイヌ伝承料理教室開催。円子紳一氏来館。
- 12月18日(金) 定例教育委員会。石原氏、酒井清氏来館。
- 12月19日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。故杉本年明氏親族7名、菅原氏、宮崎一市氏、円子紳一氏来館。
- 12月20日(日) 延岡剛史氏来館。
- 12月22日(火) 円子紳一氏、木下容子氏、橋本ひろ子氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 12月24日(木) 円子紳一氏来館。
- 12月25日(金) 橋本ひろ子氏、芽室町日本甜菜製糖八巻唯史氏、佐藤正一氏、中山修氏、森林室川勝久章氏来館。
- 12月26日(土) 旧狩勝線を楽しむ会西村良雄氏来館。
- 12月27日(日) 大盛哲男氏来館。
- 12月28日(月) 岩田彰氏、社会福祉協議会村瀬政昭氏、永澤厚志氏来館。
- 12月29日(火) 差間正樹氏、円子紳一氏、久我サトエ氏来館。
- 12月30日(水) 町仕事納め式。教育委員会仕事納め式。東栄堂高田雅行氏、中村剛氏来館。

平成28年

- 1月6日(水) 町仕事始め式。教育委員会仕事始め式。円子紳一氏来館。
- 1月7日(木) 孔版画サークル小山妙子氏、宮崎一市氏来館。
- 1月8日(金) 円子紳一氏、宮崎一市氏、小山妙子氏来館。
- 1月9日(土) うらほろスタイルゼミナール「今」を集める博物館開催。小樽市総合博物館石川直章氏、帯広百年記念館長北沢実氏、帯広畜産大学能瀬晴菜氏、小野ゆかり氏、大西華奈氏、他多数来館。
- 1月11日(月) お茶を飲みながら資料を磨く会。持田学芸員、広葉樹資源育成等検討会議(森林室)出席。中西晴男氏、帯広百年記念館今裕子氏来館。
- 1月12日(火) 三浦直春氏、井下まさの氏来館。
- 1月13日(水) 化石レプリカづくり開催。澤村寛氏、岩田彰氏来館。
- 1月14日(木) 岩田彰氏、円子紳一氏来館。
- 1月15日(金) アカゲラBOX開催。帯広百年記念館伊藤彩子氏、小林真樹氏講師として来館。小田島賢氏、川内和博氏来館。
- 1月16日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 1月18日(月) 全国孔版画年賀状展。(～1/29)
- 1月19日(火) 定例校長会。
- 1月20日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、宮崎一市氏、森林室土田章氏、円子紳一氏来館。
- 1月21日(木) 大盛哲男氏来館。
- 1月22日(金) 定例教頭会。佐藤芳雄氏来館。
- 1月25日(月) 宮崎一市氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏来館。
- 1月26日(火) 北海道新聞池田支局長鈴木圭一氏、十勝毎日新聞池田支局長末次一郎氏、宮崎一市氏、大盛哲男氏来館。
- 1月27日(水) 定例教育委員会。宮崎一市氏、森啓之介氏、円子紳一氏資料打合せのため来館。大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 1月28日(木) 岩田彰氏、円子紳一氏来館。
- 1月29日(金) 大盛哲男氏、調査のため来館。森啓之介氏、円子紳一氏来館。
- 1月30日(土) 持田学芸員、講師として本別歴史民俗資料館へ出張。

- 2月2日(火) 持田学芸員、十勝太海岸遺跡視察同行。  
北海道教育庁文化財博物館課文化財調査グループ工藤研治氏、武藤氏来館。
- 2月3日(水) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 2月4日(木) かたばみ興業尺別営業所杉山範雄氏、大坪宏秋氏、中野颯氏、宮崎一市氏来館。
- 2月6日(土) 卒業論文大発表会「浦幌のヒグマこんなに調べました！」開催。
- 2月8日(月) うらぼろスタイルゼミナール「浦幌で見つけた最後のアンモナイト」開催。  
北海道博物館栗原憲一氏、講師として来館。円子紳一氏、宮崎一市氏、差間正樹氏、  
斉藤氏来館。
- 2月9日(火) 上浦幌中学校アンモナイト授業。北海道博物館栗原憲一氏講師。商工会会議。
- 2月10日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、宮崎一市氏来館。
- 2月11日(木) お茶を飲みながら資料を磨く会。
- 2月14日(日) うらぼろスタイルゼミナール「アイヌ工芸品『木と生きる』を振り返って」開催。  
帯広美術館五十嵐聡美氏、佐藤芳雄氏、差間正樹氏来館。
- 2月15日(月) 森啓之介氏、宮崎一市氏来館。
- 2月16日(火) 井下まさの氏、福原仁子氏企画展打合せのため来館。武藤満雄氏来館。
- 2月17日(水) 浦幌小学校3年生団体見学。佐藤芳雄氏、円子紳一氏、商工会小林瞬一氏、十勝毎日  
新聞池田支局長末次一郎氏来館。
- 2月18日(木) 浦幌幼稚園団体見学。円子紳一氏来館。
- 2月19日(金) 円子紳一氏来館。井下まさの氏、橋本美代子氏企画展打合せのため来館。
- 2月20日(土) 企画展「サロンコーラスとピアノ教室の歩みからみる浦幌の音楽文化」(~3/20) ブ  
ックトーク&レコードコンサート開催。佐藤芳雄氏、鹿追町ジオパーク推進室大西潤  
氏来館。
- 2月23日(火) 定例校長会。円子紳一氏来館。
- 2月24日(水) 定例教育委員会。円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 2月25日(木) 円子紳一氏来館。
- 2月26日(金) 持田学芸員、アイヌ文化専門職員研修会（札幌市）出席。佐藤芳雄氏来館。
- 3月1日(火) 東栄堂高田雅行氏来館。
- 3月2日(水) 円子紳一氏、三浦直春氏、宮崎一市氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
- 3月3日(木) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏、内山美穂子氏来館。
- 3月4日(金) 円子紳一氏、三浦直春氏来館。
- 3月7日(月) 加納靖宏氏来館。
- 3月8日(火) 佐藤芳雄氏、円子紳一氏、三浦直春氏来館。
- 3月9日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 3月10日(木) 佐藤芳雄氏、宮崎一市氏、円子紳一氏来館。
- 3月11日(金) 北海道新聞池田支局長米林千晴氏、円子紳一氏来館。
- 3月12日(土) サロンコーラスミニコンサート。十勝森林室井上靖彦氏来館。
- 3月15日(火) 佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。
- 3月18日(金) 定例校長会。円子紳一氏、加納靖宏氏来館。
- 3月19日(土) レコードコンサート「おはなししてよ」開催。土本伸重氏来館。
- 3月20日(日) お茶を飲みながら資料を磨く会。
- 3月22日(火) 定例教頭会。円子紳一氏来館。
- 3月23日(水) 図書館・博物館協議会。幕別町教育委員会、アイヌ刺繍の会5名、円子紳一氏来館。
- 3月24日(木) 企画展「アイヌ文様刺繍展」(~4/24) 円子紳一氏、アイヌ刺繍丹野るみか氏、長谷  
川雅子氏来館。
- 3月25日(金) 定例教育委員会。円子紳一氏、室崎氏ご夫妻、井下まさの氏来館。
- 3月27日(日) 移動博物館「渡り鳥観察会」開催。
- 3月28日(月) 室崎規矩子氏、土本伸重氏、荒川和子氏来館。
- 3月29日(火) 円子紳一氏、土本伸重氏、佐藤芳雄氏、宮崎一市氏来館。
- 3月30日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、土本伸重氏、円子紳一氏、佐藤芳雄氏、須藤裕子氏、鏑  
木政洋氏来館。
- 3月31日(木) 菅谷氏、円子紳一氏、東栄堂高田雅行氏、笹村律子氏、十勝総合振興局森林室土田氏、  
井上氏、浦幌商工会3名来館。  
臨時職員前出彰子氏退職。

## X. 博物館の利用状況

### (1) 博物館入館者の推移

(平成28年 3月31日現在)

月	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	開館日数	入館者数										
4	25	582	26	664	26	611	25	779	25	682	25	697
5	25	545	26	997	27	969	27	853	27	856	27	835
6	26	654	26	753	26	812	26	847	25	582	25	1,218
7	27	862	27	1,185	26	1,322	27	1,162	27	892	27	754
8	26	1,111	26	1,077	27	984	28	1,516	27	1,187	26	1,919
9	25	848	25	866	26	769	25	1,027	24	585	26	807
10	27	729	26	784	26	1,028	27	1,040	27	741	27	826
11	23	859	26	830	26	780	26	982	26	783	24	958
12	25	482	26	793	26	376	25	558	24	990	25	576
1	22	501	22	680	22	451	20	443	24	631	23	701
2	24	472	25	527	24	596	23	571	23	1,012	23	1,025
3	27	826	26	856	27	950	26	625	26	1,104	27	845
小計	302	8,471	307	10,012	309	9,648	305	10,403	305	10,045	305	11,161
累計	3,378	104,364	3,685	114,376	3,994	124,024	4,299	134,427	4,604	144,472	4,909	155,633

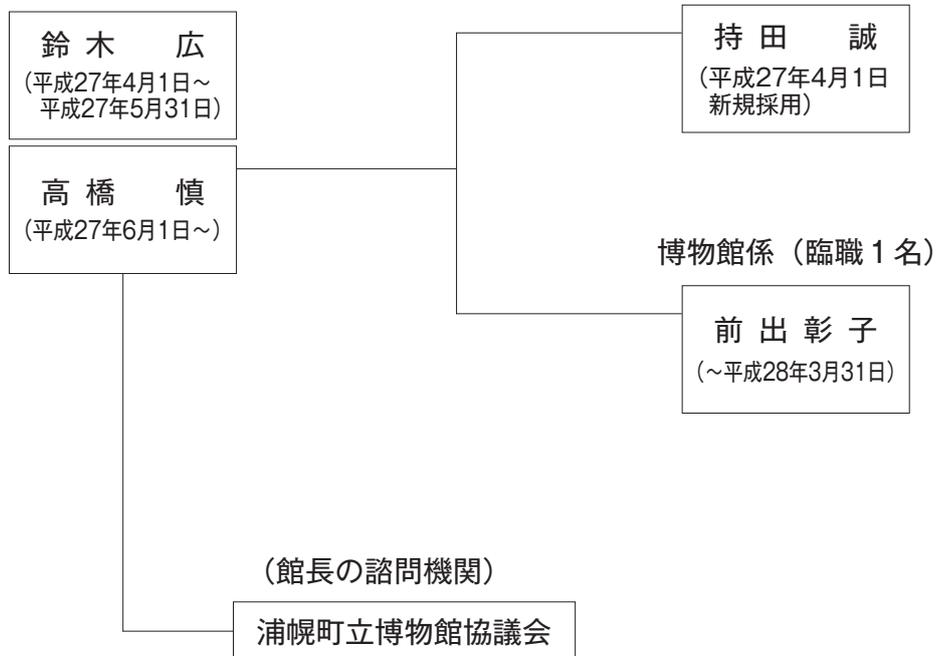
### (2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

4月 17日	しらかば保育園	22名	9月 16日	幕別町ふるさと館事業委員会	3名
5月 1日	北海道教育大学釧路校 巡検	23名	9月 18日	帯広市つつじがおか生涯学習推進委員会	25名
5月 21日	浦幌町 高砂会	16名	9月 27日	洋野町	4名
6月 1日	浦幌学童保育所	24名	9月 30日	浦幌高校一期生同窓会	23名
6月 2日	出先おびひろ会	36名	10月 14日	芽室町寿会	21名
6月 14日	広尾町朝日町内会	21名	10月 17日	大樹町柏木町内会	15名
6月 20日	帯広Y M C A	17名	10月 23日	年金者組合芽室支部	20名
6月 25日	浦幌小学校 2年生	20名	10月 23日	浦幌学童保育所	34名
6月 26日	帯広広西親和会	32名	11月 6日	酪農学園大学 野生動物学実習	21名
6月 28日	本別町教育委員会	80名	11月 21日	東十勝ロングトレイル「川のルート」	27名
7月 2日	鳥取県西部町教育委員会	13名	11月 26日	北海道大学アイヌ先住民センター	8名
7月 18日	上浦幌PTA研修会	27名	11月 26日	美瑛町教育委員会	9名
7月 26日	十勝母子寡婦連合会幹部研修	46名	12月 11日	浦幌中央寿大学	34名
8月 3日	東部四町校長・教頭研修会	40名	12月 25日	日本甜菜製糖芽室製糖所	4名
9月 2日	豊頃町通学合宿先生（大谷短期大学学生）	9名	2月 17日	浦幌小学校 3年生	26名
9月 8日	浦幌中学校3年「魅力発見バスツアー」	28名	2月 18日	浦幌幼稚園	37名

## XI. 博物館の組織

館長（兼図書館・中央公民館）

博物館係・学芸員（準職員 1 名）



平成27年4月1日現在

職名	氏名	住所	備考
会長	橋本友子	栄町2区	
副会長	円子紳一	北栄町2区	
委員	平岡弘孝	住吉町1区	
〃	水野豊昭	緑町	
〃	坂下禮子	光南	
〃	春日基江	北町2区	
〃	西森七枝	新町	
〃	大塚弥生	美園	

(任期 平成27年12月18日まで)



## XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等

### (1) 論文・出版

- 持田誠. 2015. 根室本線の開通史と東十勝の鉄道遺産. 大津十勝川研究,13: 35-46.
- 持田誠. 2015. 北海道の路面間隙雑草：国道38号線調査の予報として. 環オホーツクの環境と歴史, 4: 47-55.
- 持田誠. 2015. 市町村の博物館からみた雑誌記事索引の課題：小規模博物館に雑索が必要な理由. アート・ドキュメンテーション学会行事企画委員会編『アート・ドキュメンテーション学会第8回秋季研究発表会予稿集』, 13-16.
- 持田誠. 2015. 樹木の分類地理とアイヌ文化. アイヌ文化振興・研究推進機構編『木と生きる-アイヌの暮らしと木の造形』, 170-173. アイヌ文化振興・研究推進機構, 札幌

### (2) 研究発表等

- 持田誠. 「雑誌記事索引採録誌選定基準の博物館紀要における問題点」全日本博物館学会第41回研究大会. 平成27年6月28日. 京都国立博物館
- 持田誠. 「市町村の博物館からみた雑誌記事索引の課題：小規模博物館に雑索が必要な理由」アート・ドキュメンテーション学会第8回秋季研究発表会, 平成27年11月14日. 根津美術館（東京都）

### (3) 共同研究

- 浦幌町内における特定外来生物ウチダザリガニの実態に関する調査（浦幌の自然を楽しむ会）
- 北海道の炭鉱跡地の植生回復に関する研究（釧路市立博物館）
- 北海道産サクラソウの分類地理学的研究（北海道大学環境科学研究院）

### (4) 依頼講演・講師等（浦幌町外）

- 有島記念館「鮫島惇一郎植物画展北ぐにの花絵本」普及事業「旧有島農場産業遺産and植物観察ウォーク」平成27年7月3～4日、ニセコ町
- 市民活動プラザ六中地域マイスター講座「十勝の鉄道について」平成27年10月29日、帯広市
- めむろ歴史探訪会講演会「十勝の鉄道史と鉄道遺産」平成27年11月20日、芽室町
- 湿原研究所第48回湖水地方講座「外来種はなぜ問題になるのか？」平成27年12月12日、大樹町
- 本別町歴史民俗資料館企画展示「ほんべつ鉄道物語：ふるさとをのせて」関連事業「十勝の鉄道史と鉄道遺産：池北線を中心に」平成28年1月30日、本別町

### (5) 主な社会活動・外部協力

- アイヌ文化振興・研究推進機構平成27年度アイヌ工芸品展企画委員（平成27年5月15日～平成28年3月31日）
- 北海道教育大学非常勤講師（平成27年4月1日～9月30日）
- 北海道大学総合博物館資料部研究員
- 北海道博物館協会学芸職員部会幹事
- 東十勝ロングトレイル協議会オブザーバー
- 浦幌町着地型観光推進委員会委員
- 十勝総合振興局森林室広葉樹資源育成等検討会議委員

## XIII. 博物館活動のマスコミ報道



自然や歴史の  
研究成果報告  
博物館紀要第15号  
【浦幌】町内を舞台にし  
たさまざまな研究内容を紹

介する町立博物館研  
究紀要第15号Ⅱ写真  
Ⅱが発行された。1  
972年から96年ま  
で発行された郷土博  
物館報告から続くも  
ので、通算では60冊  
目となる。

紀要は年一回の発行で、  
3月末に出版した。今回の  
内容は自然と歴史に関する  
ものが中心となっている。

北大大学院理学研究院付  
属地震火山研究観測センタ  
ーの西村裕一助教らによる  
「浦幌町豊北の湿原におけ  
る古津波堆積物のトレンチ  
調査」では、この3500年  
ほどに蓄積した泥炭から津  
波堆積物の砂の層を確認  
し、津波堆積物の分布が当  
時の植生に「コントロールさ  
れた」と考察した。

この他、「北海道東部に  
おけるヒゲマの分散」(酪  
農学園大学の佐藤喜和氏  
ら)や「昭和20(1945)  
年度浦幌村教育研究会記  
録」(帯広百年記念館学芸  
調査員の持田誠氏)「現町博  
物館勤務」などを掲載した。  
紀要はA4判97頁。無料。  
問い合わせは同館(015  
・576・2009)へ。  
(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年4月4日

### 刺繍細やかに アイヌ文様作品 14日まで展示

【浦幌】アイヌ文様刺繍  
(ししゅう) 展示会(道ア  
イヌ協会浦幌支部、町立博



物館主催)が町博物館ホ  
ールで開かれている。14日ま  
で。

アイヌ文様の刺繍講座に  
参加した人らが出品。会場  
には、「ルウンペ」(着物)  
や、「チチリ」(木綿衣)の  
他、タペストリー、テーブ  
ルセンター、コースターな

アイヌ文様をあしらった刺  
繍作品に見入る来場者たち  
ど合わせて35点が展示され  
ている。

今年初めての挑戦で、の  
れんやタペストリー、バッ  
グを制作した町内在住の広  
富小百合さんは「細かい作  
業が好きなので、時間がか  
かって大変だったけど楽し  
かった」と話していた。家  
族3人で見学した町内在住  
の石田美咲さん(34)、正  
龍君(7)、健心ちゃん(5)  
は「すごく細かい作業で驚  
いた」と感心していた。

会場には、アイヌ文化振  
興・研究推進機構(札幌)  
でアドバイザーを務める山  
本みい子さんと、廣川和子  
さんの作品も展示されてい  
る。(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年4月4日



残る鉄道関係の文書、写真、地図なども探して展示していきたい」と強調した。  
(鈴木圭一)

浦幌に残る鉄道関係の資料探したい

4月1日付で浦幌町立博物館学芸員になった持田誠さん(42)。同博物館の魅力について「土器から植物まで、浦幌の幅広い資料が保存されている」と話す。

北大大学院で農学博士の学位を取得した。前職は帯広百年記念館の学芸調査員で、専門は植物学。海岸の植物調査で浦幌はたびたび訪れていた。「自分の調査フィールドで働きたい」という希望もあり、今回、学芸員の募集に応じた。

帯広百年記念館時代は十勝の鉄道、農業の歴史についても研究をしていた。「浦幌は釧路方面から初めて鉄道が十勝に延伸された地。今後は町内に



「北海道新聞」 2015年5月1日

ウラボロイチゲを観察  
浦幌で博物館ミニ講座



ウラボロイチゲを観察する参加者

【浦幌】町立博物館ミニ移動講座「ウラボロイチゲを見に行こう」が4月25日、町内で開かれた。町内外から17人が参加し、町内在住の坂下禮子さんの案内で3カ所の自生地を巡った。

参加者は満開のウラボロイチゲやアズマイチゲ、きれいな黄色のキバナノアマナ、青いじゅうたんを敷き詰めたようなエゾエンゴサクの群落などを観察。純白のエゾエンゴサクも見られ、盛んにカメラのシャッターを押す姿も。

ウラボロイチゲ、アズマイチゲは例年より花が大きいといい、富良野市から参加した市原久美子さん(57)は「ウラボロイチゲは初めて見た。図鑑よりずっとかわいい」と笑顔で見入っていた。

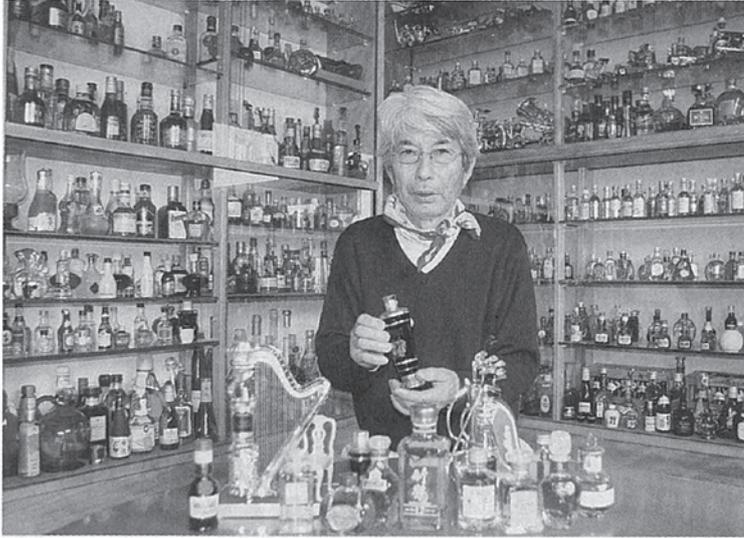
同博物館の持田誠学芸員は「ウラボロイチゲは日本では浦幌から釧路の道東のみに見られる貴重種。これからのいろいろな花が咲くシーズンなので山野で観察してもらえれば」と話していた。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年5月5日

# 美しさに引かれ50年

## ミニチュアボトル収集

【浦幌】町内在住の無職福沢利一さん(72)は、趣味で集めたミニチュアボトルが約1000本に上る。美しさに引かれ、半世紀近くにわたる収集で、自宅の居間に手作りしたコレクション棚には、高さ10センチ程度のウイスキーなどのボトルがずらりと並ぶ。福沢さんは「これからもまだまだ集めたい」と意気込んでいる。



ウイスキーなどのミニチュアボトル約1000本を収集し、居間に飾って楽しんでいる福沢さん

浦幌の福沢利一さん

# 1000本

福沢さんは「1000本くらいは誰でもすぐに集められるが、それからが大変。飲み屋さんに通い続けて譲ってもらったものもある」と収集の秘訣(ひけつ)を披露。

自身が飲むアルコールはビールが好きという福沢さんだが、自宅に遊びに訪れた友人がミニチュアボトルを見て飲みたいと言っても「駄目」と断り続けているという。

コニヤックなど福沢さんのコレクションの一部約2

### 楽器形の「逸品」も

1、ワインなど洋酒にとどまらず、日本酒や焼酎まで幅広くそろえている。

高さ10〜15センチほどのボトルは、形が通常のボトルを小さくしたものから、バイオリンやサクソフォンなどミニチュア楽器の一部の形をしたもの他、ゴルフバッグの形をした珍しいボトルも。NHKドラマ「マッサン」で人気となったニッカウヰスキーの「竹鶴」も収集されている。

同館の持田誠学芸員は「ミニチュアボトル自体が貴重。コレクションの楽しさを感じてもらえれば」と来場を呼び掛けている。問い合わせは、同館(015・576・2009)へ。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年5月10日

## Tシャツ販売で活動費

### 浦幌ヒグマ調査会が制作



オリジナルTシャツを着込み、購入を通じた協力を呼び掛ける調査会の学生たち

【浦幌】町内をベースに十勝、釧路の両管内でヒグマの生息についてフィールドワークを重ねている「浦幌ヒグマ調査会」（佐藤芳

生が描いた図案を通じて、ヒグマとの共生を呼び掛けている。大会はヒグマと人間の共生を目指して1998年6月に結成。酪農学園大学環境共生学類野生動物生態学研究室の佐藤善和教授と、同大学の学生を中心に生態調査や啓発活動、各種の学会発表を行っている。会員数は町民ら含めて138人。Tシャツは、ヒグマと農民が同じ方向を向いている姿を図案化したもので、同

「十勝毎日新聞」 2015年5月14日

大学生たちが描いた。サイズはS、M、L、XLの4種類あり、1枚2000円。町内の道の駅うらほろで販売している。

同調査会の石橋悠樹さん（23）は「大学院2年生は1しつかり研究するので、Tシャツ購入で支援してもらえれば」と話している。問い合わせは町立博物館（015・576・2009）へ。（田子紳一通信員）

採食環境を調査  
同調査会の今年度総会が2日、町内のレストランで開かれた。ヒグマ調査で来町している佐藤教授と学生



グマの遺伝的多様性の変化なども調べる。子供を対象にした「ヒグマの学校」一般対象の「山歩き講座」の他、札幌市の「豊滝市民の森」でヒグマ生息状況のモニタリングなども継続する。（田子紳一通信員）

たち、町民ら26人が出席。佐藤会長が「ヒグマの行動が例年と違うので注意してほしい」とあいさつした。今年度事業計画では、ヒグマとヒグマのふんを栄養分析して採食環境を調べたり、DNA分析によるヒ

## 「青い鳥」見つけた

### オオルリ観察

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「青い鳥」を探そう！が9日、うらほろ森林公園（町東山）で開かれた。

町内外から9人が参加。町内の野鳥愛好家、春日基江さんが案内役を務めた。参加者たちは「ヒーリーリー」や「フィーチャーチャー」などのさえずりを頼り



こずえでさえずる音を頼りにオオルリを探して観察する参加者たち

に、青色に輝く「オオルリ」の姿を見つけると、双眼鏡やフィールドスコップを使って観察した。

オオルリは夏鳥として全道に飛来しており、オスは沢筋のこずえに複数のソングポスト（さえずり場所）を持っている。朝日を浴びてコバルトブルーに輝く姿や30センチほどの距離からオスとメスが飛び交う様子も観察した。

春日さんは「こんなに近くで見られるとは思わなかった」とし、音更町から参加した石橋昭さん（66）は「双眼鏡の真ん中でバッチリ見えた」と笑顔を見せた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年5月15日

「思い出の記録メモ」  
に見る来場者



【浦幌】町立博物館（鈴木）

### 昭和の暮らし 伝える道具展

町立博物館

木広館長が収蔵している資料を展示する「なつかしの昭和と生活展」が、同館展示ホールで開かれている。29日まで。入場無料。

昭和時代の生活の様子を感じてもらおうと企画。会場には、裁縫箱や薬袋、火鉢、アイロンなど、昭和の生活や暮らしが分かるさまざまな家財道具や家電製品が展示されている。

また、昭和の浦幌を伝える「思い出の写真」では、当時の留真温泉や来場客でにぎわう厚内浜キャンプ場などの写真を掲示した。

「昭和の生活・思い出記録メモ」コーナーでは昭和の生活に関する思い出をメモに書いて貼り付けることができ、黒電話の思い出や、足踏みミシンについて「服は私が仕立てた（80代女性）」など、来場者が書き残したメモが貼られている。

会場を訪れた町内の関口美和さん（43）は「ちやぶちやぶ足踏みミシンは、おばあちゃんの家で見た記憶がある」と懐かしそうに話していた。月曜日休館。午前10時～午後5時。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年5月22日

### 先生たちが 浦幌再発見

史跡巡る研修会

【浦幌】町内の小・中学校に勤務する教員らに地元浦幌の魅力を再発見してもらおうと、史跡や景勝地を巡る研修会が16日、町内で行われた。

子供たちに地域への愛着を持ってもらう「うらほろスタイル」事業への理解を深めるのが狙いで、町教委とうらほろスタイル推進協議会の主催。小・中学校の教員ら15人が参加。町立博

物館で3月末まで館長を務めていた佐藤芳雄さんと、同博物館の持田誠学芸員が講師を務めた。

一行は、町発祥の地や戦争遺産のトーチカⅡ写真



Ⅱ、昆布刈石展望台など10カ所の史跡や景勝地を巡った。十勝大遺跡では住居跡を見学し、JR上厚内駅の駅舎などを見て回った。昼食は浦幌の中学生が考案した町内特産品を使う弁当で地元食材を堪能した。

上浦幌中央小学校の澤田理沙教諭（24）は「本別出身で浦幌にはよく来たが、表面的にしか見ていなかった。昆布刈石からの太平洋の眺めは最高だった。あの場所で見学することができれば」と話していた。

（広橋基嗣通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年5月23日

## 昭和初期の能謡本 そろって浦幌に

【浦幌】町内の会社役員米沢喜八郎さん(63)が姉の遺品から、能楽師第14世喜多六平太が昭和初期に著作した能の謡本全38巻など合わせて40冊を見つけた。謡本がそろっていたことなどから、神戸女子大学古典芸能研究センター(神戸)に寄贈することになった。米沢さんは4月半ば、2月に71歳で亡くなった姉藤井道子さんの町内の自宅で遺品整理をした際、木箱に入った能の謡本を見つけた。相談を受けた町博物館の持田誠学芸員が調査した結果、1928年(昭和3年)から35年(同10年)にかけて喜多流謡本刊行会が出版したものと分かった。38冊は喜多流の能のせりふに当たる謡をすべて書いた謡本で、他の2冊は振り付けなどを説明した内容だった。謡本が全巻そろって見つかるのは珍しく、状態も良

米沢さん 姉の遺品から40冊 神戸の大学に寄贈へ

昭和初期の喜多流謡本と調査した持田誠学芸員  
 かったため、寄贈先をインターネットで全国から募集。神戸女子大学の研究センターに決めた。同センターは「内容をよく調査し、研究に役立てたい」。米沢さんは「姉が大切にしてきた本。保存先が決まってよかった」と話した。(鈴木圭一)



「北海道新聞」 2015年5月28日

持田さんが仕事を解説  
 夜学講座  
 【浦幌】うらほろスタイルゼミナール夜学講座「学芸員のしごとってなに？」(町立博物館・町中央公民館共催)が同公民館で開かれ、参加者たちは学芸員の役割などを学んだ。持田誠学芸員が4月に着任したことを受け、学芸員学芸員の仕事について説明する持田学芸員(右)



「十勝毎日新聞」  
 2015年5月30日

の仕事に理解を深めてもらおうと20日に開催、町内外から7人が参加した。

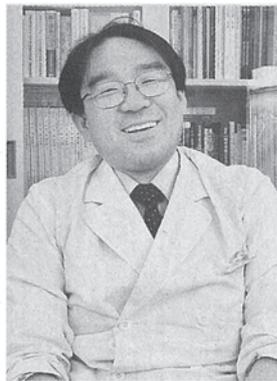
講師を務めた持田学芸員は、博物館活動に「収集・保存」「調査・研究」「展示」の3つの役割があることを説明。東日本大震災では「海水に浸かったり砂まみれになったりした資料を復元するため、全国の学芸員が応援した」と仕事の一端を紹介した。町内の男性(63)は「学芸員や博物館の役割がよく分かった。これからも講座に参加したい」と話していた。(田子紳一通信員)

浦幌町立博物館

# 13年ぶりに学芸員

## 持田さん「町のアピールに」

【浦幌】町内の自然や化石、遺跡、歴史などを保存・展示している町立博物館に今年度、13年ぶりに学芸員が配置された。着任したのは、3月末まで帯広百年記念館の学芸調査を務めた持田誠さん(42)。今後、町内に眠る各種資料の掘り起こしに加え、展示・保存資料の発信などの教育活動にも取り組む方針。持田さんは「町のアピールにつなげたい」と意気込んでいる。



「博物館の資料を一元発信して町のアピールに意欲を語る持田さん」

同博物館は町教委が管理・運営している施設で、これまで主に町教委職員が運営に当たってきた。持田さんも今回、町教委の職員として採用されたが、資料の収集・保存・展示に関する知識・技術を持つ専門職の学芸員として同博物館の運営に当たっていく。

持田さんは1973年、横浜生まれ。酪農学園大学への進学を機に来道し、同大を卒業後、北大大学院農学研究科に進んで博士後期課程を修了(農学博士)。北大総合博物館や小樽市総

合博物館などの勤務を経て、2010年10月から帯広百年記念館で学芸調査員を務めた。専門は植物と産業(鉄道)。

浦幌に着任した理由について、持田さんは「植物標本探して東十勝を訪れるうちに、白糠丘陵の植生や浦幌の鉄道遺産などが、自分のテーマに合う地域と考えた。博物館の資料保存や記録も非常にしっかりしている。学芸員の活動が、しやすい面も魅力だった」と話す。

持田さんは今後、特に同博物館が所蔵する各種資料の電子化やネットでの発信を強化する考えで、「浦幌で得られる資料を学術的な資源として活用し、浦幌の地域発信につなげたい」と話している。(井上朋一)

### 結成15周年彩る 絵手紙250点 「こぶし」17日まで

【浦幌】絵手紙サークル「こぶし」(森ひろ子会長、会員9人)の結成15周年記念作品展が町立博物館特別展示ホールで開かれている。入場は無料。



絵手紙サークル「こぶし」の新メンバー。左から森会長、島西宮川、西宮川、北村幸慶子、金川道子さん、佐藤慶子さん、森とエさん、三ツ子さん。

同会は、とち絵手紙の会の津島民子会長が講師を務める町中央公民館講座をきっかけに2000年4月発足。月2回の例会で絵手紙を描く他、町文化祭などに毎年出展している。今回の作品展では、昨年

と顔彩(がんさい)で色鮮やかに描かれている。中には幅28センチ、長さ145センチの大きな半紙に大きなイチゴの絵を添えた友人宛への迫力ある作品も展示され、森会長は「多くの人に見てもらえれば」と話している。17日までで、時間は午前10時～午後5時(最終日は午後3時まで)。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年6月5日

【浦幌】町立博物館の連続講座「豊北海岸自然観察」開かれた。

## 貴重な植物、見分け方も

浦幌博物館講座 豊北海岸で観察会



参加者たちにヤチボウズに咲くシロバナスミレを説明する持田学芸員（右）

町内外から11人が参加。同博物館の持田誠学芸員の解説で、白くきれいなシロバナスミレとトヨコロスミレの見分け方を学んだ。また、ハクサンチドリやガンコウランなど高山植物と、ハマエンドウやヒメイズイなど海浜植物と一緒に見られる貴重な浦幌の自然を体験した。

この日は、ツマトリソウやマイヅルソウ、センダイハギが満開に。スズランのやさしい香りが広がる中、咲き始めた町花のハマナスなど33種を確認した。

父親の井上靖彦さん(51) 町内在住と参加した夏海さん(浦幌小4年)、友達の宮本夕菜さん(同)は「初めて見る花がいっぱい」と笑顔だった。

持田学芸員は「開花が例年より早く、見ることができなかつた花もある」と話していた。同連続講座は毎月1回、同海岸での観察会を開催、咲く花の移り変わりを確認する予定で、同博物館は参加を呼び掛けている。(田子紳一通信員)

〔十勝毎日新聞〕 2015年6月11日

## 浦幌 ヤチボウズに興味津々

たっしん 1037



町立博物館のミニ移動講座「ヤチボウズ大解剖！」(同博物館主催)が6月21日、上厚内や豊北のヤチボウズ群落で開かれた。写真。

町内外から6人が参加。同館の持田誠学芸員が講師を務めた。ヤチボウズは、スゲ類の植物が冬の土壤凍結と春の融雪を数十年かけて繰り返し、40〜50センチの高さに盛り上がる。

上厚内では2つに切り分けたヤチボウズの中にキイロケアリ、クシケアリなどが棲み着いていることを確認。豊北では株の上に野生のイネ科植物や牧草などが生育しているヤチボウズも観察した。更別在住の大西純さん(67)は「比較が面白かった」と話していた。

〔十勝毎日新聞〕 2015年7月4日

# とがち探訪 ミュージアム

## 浦幌町立博物館



アロデスムスの下肢部分の標本レプリカ。左に見えるのは土器や石器のコーナー



<メモ>浦幌町桜町16の  
1 ☎015・576・2009 午前  
10時～午後5時、月曜定休  
(祝日の場合は翌日) 入場  
無料



町鳥でもあるアオサギの集団営巣地を再現したジオラマ

### 標本に太古のロマン

暑い日が続く。室内で身体をクールダウンしながら、知的好奇心を刺激するのはいいかが。浦幌町は海も山のレジャーも楽しめる。ドライブの途中、気軽に立ち寄れる浦幌町立博物館を紹介する。(安倍友紀子)

博物館は教育文化センターから徒歩21分にある。植物「ウラボシチヂリ」など町の自然をはじめ、1999年、開町100周年を記念して開設された。約380平方メートルの展示場には、収蔵品約900点がずらりと並ぶ。中でも恐竜とアンモナイトを絶滅させた6500万年前の白亜紀と三畳紀の境界「K-T」境界の紹介パネルが興味深い。同境界は小惑星の衝突による地球の気候大変動を示し、日本で唯一、浦幌町で確認されている。91年に町内で発見された、太古のロマンを伝える水生哺乳類「アロデスムス」(約1400万～1200万年前に生息)の下肢部分の標本レプリカ

「石刃」の古文化「シベリア起源の古代文化」の展示も興味深い。浦幌町の開拓時の様子や、おはやしが流れる楽しい仕掛けもある。一足、最初の収蔵資料は、2011年に探検隊が発見された。浦幌町立博物館には、開館以来の歴史を伝える展示がある。17世紀に起きたとされる大津波の痕跡など、夏休みは子ども向けの企画も用意する。8月5日は「アロデスムス」の文化に親しみ、同6日は「アロデスムス」の化石探し、同11日はヒクマの生態などの学習を予定している。館内には学習用図書、持田誠学書庫は「気軽に声をかけてください」と話す。

「北海道新聞」 2015年7月21日

**原爆資料見学や化石探し**  
**25日から小中学生講座**

【浦幌】町立博物館(桜町16)は25日から8月13日まで、小中学生向けの講座「夏休み子ども博物館」を開く。広島に投下された原爆関連の資料を展示している本別町歴史民俗資料館の見学や浦幌町内の貝の化石探し、ヒクマの生態の勉強会などを予定している。講座によって定員があり、参加費が必要。一般参加も可能。問い合わせ・申し込みは同館 ☎015・576・2009へ。

講座の日程と内容は次の通り。

- ▽7月25日 原爆展を見学しよう
- ▽8月30日 チョウをさがして町中巡ろう
- ▽8月5日 アイヌ文化で遊ぼう
- ▽同6日 貝の化石をさがそう
- ▽同11日 ヒクマの学校
- ▽同13日 ちょうちょ展へ行こう

「北海道新聞」 2015年7月22日

## 地元の歴史と 魅力を再発見

ふるさと探訪

【浦幌】地図を片手に市



持田学芸員（左手前）  
の案内で街並みを探索  
した参加者

街地を歩いて、まちの移り変わりなどを観察する「ふるさと探訪・駅前編」（町立博物館、町中央公民館共催）が18日、町内のJR浦幌駅前からハローパークの間で行われた。

上浦幌PTA連合会の町内研修会一行も合流して計28人が参加。同博物館の持田誠学芸員が講師役を務めて、十勝で最初に開業した同駅を中心に街並みが形成されたことを学んだ。

参加者たちは、鉄道の各駅近くにあった日本通運の誕生の話を聞き、町内の旅館の壁にある屋号、入り口に古い電球がある元馬房（馬小屋）などを発見。町百年史に収録されている1916（大正5）年と、1

949（昭和24）年の地図などに見比べながら、現在の街並みとの違いにも気付いた様子だった。町内在住の松村美紀子さん（38）は「知らないことばかりで勉強になった」と感心していた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年7月31日

## ■浦幌 戦争資料を学ぶ

町立博物館に所蔵されている戦争関連の資料について学ぶ講座（同博物館主催）が7月15日、同博物館で行われた。

町内外から7人が参加し、同博物館の持田誠学芸員が講師を務めた。写真。1945年



7月15日の十勝空襲から70年となることから実施。持田学芸員は、空襲を受けた町内厚内地区の様子について、当時の地図や写真などを示しながら説明した。また、戦争体験者が少なくなっているため「体験者の記憶を資料にまとめ、客観的に検証できる動かない物も残り、伝えていきたい」と話した。

たらん  
TOWN

「十勝毎日新聞」 2015年8月1日

本別の原爆展へ  
浦幌から“遠足”

【浦幌・本別】浦幌町民による「えんそく博物館・原爆展を見学しよう」（浦幌町立博物館主催）が7月25日、本別町歴史民俗資料館などで行われた。  
同資料館は特別展「7月15日日本別空襲を伝える」と「広島平和記念資料館資料



今野さん（右）の案内で被爆資料に見入る参加者

展」を16日まで開いている。歴史の重みと平和の尊さを学ぼうと企画し、浦幌町民6人が参加。同資料館友の会の今野保雄さんが案内役を務めた。

広島平和記念資料館資料展では、原爆投下後のきのこ雲や市民が描いた被爆直後の住民の姿などのパネル、原爆の投下時刻に停止した腕時計や溶けた瓦の塊などの資料を見学。本別空襲の証しとして、鉄橋のれんが製橋台に今も残る銃弾痕も見学した。  
兄2人を戦争で亡くした斉藤定男さん（76）は「二度と戦争のない、平和な世界を望みたい」と話していた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年8月4日

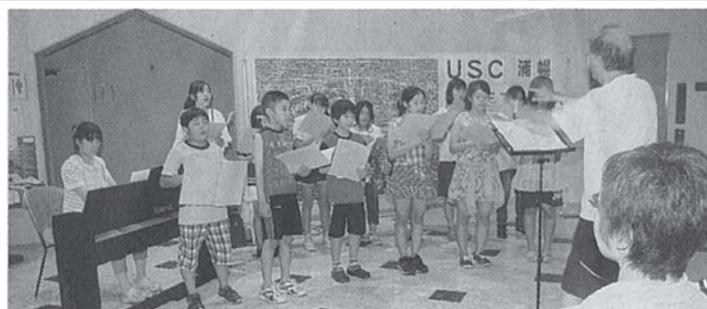
会場に響く  
歌声爽やか

青少年コーラス  
初のコンサート

【浦幌】「うらほろ青少年コーラス（USC）」（指導・三浦智さん、団員17人）による初めてのコンサート

が1日、町立博物館ロビーで開かれた。写真。

町民約40人が来場。団員は三浦さん（元浦幌小学校教諭）＝幕別町在住＝の指揮で「アヴェ・マリア」など4曲を披露。来場者は会場に響く爽やかな歌声に聴き入った。



USCは今年3月で定年退職した三浦さんの教え子たちの要望で5月に結成し、練習を重ねてきた。コンサートを前に団員の櫻庭優那さん（浦幌中2年）は「練習通り良い声を出したい」と張り切っていた。

コンサートを聴いた「うらほろサロンコーラス」の井下まさの代表は「素直な声。ソプラノがきれいでアルトの支えがしっかりして共演する予定。」

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年8月11日

### 大学院生ら「ヒグマの学校」

●浦幌 酪農学園大（江別市）の大学院生らによる「ヒグマの学校」が11日、十勝管内浦幌町立博物館で開かれ、町内の小学生29人がヒグマの生態を学んだ。雄のヒグマは最大で体重300キ、体長3と説明されると、児童から驚きの声が上がった。

「北海道新聞」 2015年8月12日

画像でヒグマの生態を学ぶ子供たち



## ヒグマの生態興味津々

### 浦幌 酪農大院生らが教室

【浦幌】酪農学園大（江別市）の大学院生らによる「ヒグマの学校」が11日、町博物館で開かれ、町内の小学生29人がヒグマの生態を学んだ。博物館の主催で、同大野生動物生態学研究室の大学院生、学生計6人が講師として参加した。研究室は毎年、町内の山林で固定カメラなどを使い、春から秋にかけてヒグマの識別調査を行っている。「学校」では、雄のヒグマが最大で体重300キ、体長3になることを画像を使いながら説明。子供たちから「大きい」と驚きの声が上がった。万が一、ヒグマに出合ったら背を向けず、ゆっくり歩きながら離れるといった注意点も学んだ。（鈴木圭一）

「北海道新聞」 2015年8月12日

### 戦場を見た鉄かぶとなど展示

●浦幌 十勝管内浦幌町立博物館所蔵の戦時資料などを展示する企画展「戦争の記憶展」が、同館特別展示ホールで開かれている。町出身の兵士が持ち帰った日章旗や軍服、鉄かぶとなど約50点を展示。来館者らが見入っている。9月3日まで。無料。

「北海道新聞」 2015年8月15日

### 真剣な表情でムックリの糸を引く子供たち



（田子紳一通信員）

「大きくてびっくりした」と笑顔だった。

「十勝毎日新聞」 2015年8月13日

## ムックリ演奏 できるかな？

### アイヌ文化体験

【浦幌】夏休み中の子供たちにアイヌ文化や化石発掘を体験してもらおうイベント「夏休みこども博物館」（町立博物館主催）が、6の両日、町内で相次いで開かれた。このうち5日は同博物館

展示室で、親子連れや学童保育の児童ら28人が参加してアイヌ文化の楽器「ムックリ」の演奏を体験した。子供たちはムックリの音が鳴ると、歓声を上げた。佐藤龍（りょう）君（浦幌小4年）は「すぐに音が出ておもしろい」と笑顔を見せていた。6日は「貝の化石をさがそう!」。町厚内町で町内外の小学生8人が参加して、川などにある貝の化石探しを体験した。巻き貝の化石を見つけた沢野優太くん（浦幌小2年）は「楽しかった」とし、ホタテの化石を見つけた嶋田諒君（同5年）は「大きくてびっくりした」と笑顔だった。

## 資料が語る戦禍の記憶

浦幌で企画展

【浦幌】町立博物館所蔵の戦時資料などを展示する企画展「戦争の記憶展」が、



貴重な資料が展示されている「戦争の記憶展」

同館特別展示ホールで開かれていた。来館者がじっくりと見入っている。

「北海道新聞」  
2015年8月15日

戦地に赴いた町内出身の兵士が持ち帰った日章旗や旧日本軍の軍服、勲章、鉄かぶなど約50点を展示。終戦から約2カ月後に町内の国民学校の教員（当時）が今後の教育について語った時の議事録もある。1945年（昭和20年）7月15日に町内厚別の空襲の記録なども展示してある。

（鈴木圭一）

### ヒグマ毛皮や骨 生態映像も展示

【浦幌】ヒグマの生態や人間との共生などについて学ぶ「ヒグマの学校」（町立博物館主催、浦幌ヒグマ調査会共催）が11日、同博物館展示室で開かれた。同会（佐藤芳雄会長）のメンバーで、毎年町内で調査をしている酪農学園大学の学生6人が講師を務め、町内の小学生30人が参加。ヒグマの毛皮や骨なども展示された。



2斤を超す雄クマが有刺鉄線を巻いた柱で背中をこする様子や、母クマと歩く2頭の子クマの映像が流された。児童たちは「かわいい」と歓声を上げていた。

ヒグマの食べ物や遭遇した場合の対応などをクイズで学習し、全員にエゾシカの角のペンダントをプレゼント。高橋美紗稀さん（浦幌小4年）は「楽しかった」と笑顔を見せた。（田子紳一通信員）

ヒグマの毛皮や骨を実際に手にとって生態などを学んだ児童たち

「十勝毎日新聞」 2015年8月20日



**戦争史料を展示  
厚内空襲証言も**

町立博物館

【浦幌】戦争の悲惨さを後世に伝え続けようと、町立博物館所蔵の史料を展示

する「戦争の記憶展」(同博物館主催)が同博物館・展示ロビーで開かれている。9月3日まで  
会場には、終戦前の1945年7月15日に、町内厚内地区であった空襲の経過が、地域住民や列車機関士らの証言などを基に時系列で揭示。  
警戒警報が発令される中、厚内防空監視哨の哨員だった林鈴子さん(当時16)が、米軍の戦闘機グラマンの機銃掃射を受けて殉職したことを伝えている。  
浦幌ではこの日、市街地や貴老路、留貫、吉野の各地区でも機銃掃射や爆撃を受けた。

同展ではこの他、戦死した若い兵士が母親や兄に宛てた手紙や、戦地で生きた証しとして書かれた日記など約90点も展示している。  
会場を訪れた町内在住の宮崎一市さん(67)は「厚内空襲の様子が身近に伝わると話していた。  
入場無料。時間は午前10時〜午後5時。  
(田子紳一通信員)

体験者の証言を基に厚内空襲の経過を記録したパネルに見入る来場者たち

「十勝毎日新聞」 2015年8月28日



**浦幌町立博物館**

**来館15万人突破**

【浦幌】町立博物館(高橋慎館長)の来館者数が、1999年に町教育文化センター(愛称・らほろ21)の現在地でオープンして以降、延べ15万人を超えた。5日には15万人目となった来館者に記念の証明書と記念品が贈られた。同館には1日平均で30人超が訪れている計算。運営に当たる町教委は、今後も展示内容の充実と来館者増を図っていく。

**1999年開館 北村さん姉妹に記念品**

同館は1999年12月、新築した同センター1階に町立図書館と同時にオープンした。来館者数は2004年11月に5万人、10年8月に10万人に到達し、3月末までに14万4472人が来館していた。通算開館日数は4739日(5日現在)のため、1日平均来館者数は31.7人。  
5日は、町内から母親の北村嗣未さん(32)、祖母の敦子さん(70)とともに

15万人目の来館者となった日穂ちゃん(前列中央)と心悠ちゃん(後列中央)。左から高橋館長、嗣未さん、敦子さん、久門教育長

来館した日穂(ひまり)ちゃん(3)と妹の心悠(こはる)ちゃん(1)姉妹が15万人目の来館者となった。記念セレモニーでは、町教委の久門好行教育長が日穂ちゃんと心悠ちゃんに記念の入館証明書を贈った。  
母親の嗣未さんは「きょうは心悠の誕生日。とてもうれしい」と喜びを語り、日穂ちゃんと心悠ちゃんは笑顔で絵本を手にしていた。

同館は町の歴史、自然、文化など6つのテーマで各種史料などを展示。アオサギの集団営巣地(コロニー)のジオラマ、町内の史跡から出土した土器や石器など特色ある展示もある。  
久門教育長は「今後もさらに展示内容を充実させ、町民に親しまれる博物館を目指したい」と語った。

同館の開館時間は午前10時〜午後5時。休館日は月曜日と、祝日の翌日、年末年始。入館は無料。問い合わせは同館(015・576・2009)へ。  
(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2015年9月8日

### ■浦幌 雑草の特性学ぶ

うらほろスタイルゼミナール夜学講座の一環で「田んぼの雑草、畑の雑草」（町立博物館、町中央公民館共催）が16日、町立博物館で開かれた。写真。



町民9人が参加。同館の持田誠学芸員が水田のミズアオイや畑のオオイヌタデ

の他、庭にも生えるセイヨウタンポポなど約25種類を紹介。雑草の特徴を説明し、根絶する難しさや外来種の問題も伝えた。宮村陽子さん（40）は「身近な植物にやっかいなものがあると知った」と話し、認識を改めた様子だった。

「十勝毎日新聞」 2015年9月27日

### ■浦幌 ウチダザリガニ学ぶ

ことなどを解説した。写真左。浦幌の自然を楽しむ会の吉原敬司会長は「外来種の問題は、動物や、植物、昆虫でも起きている。少しでも環境を考える機会になれば」と話していた。

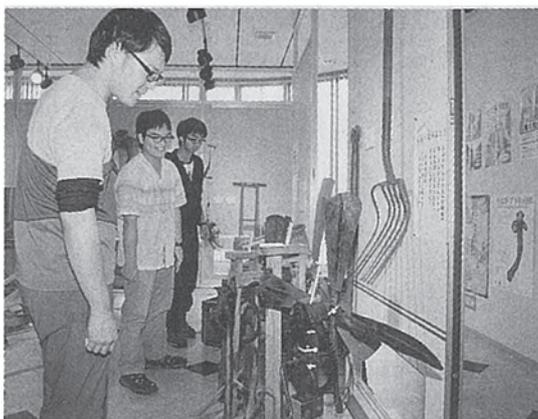


町内外から10人が参加。ウチダザリガニに詳しいオホーツク管内美幌博物館の町田善康学芸員はウチダザリガニが在来種のニホンザリガニのすみかや食べ物（サリガニペスト）をつつす

うらほろスタイル・ゼミナールの一環で、「ウチダザリガニってどんなザリガニ」（浦幌の自然を楽しむ会、町中央公民館共催）が9月20日、町教育文化センターで開かれた。

「十勝毎日新聞」 2015年10月4日

展示されている農具を見学する来場者たち



展示されている農具を見学する来場者たち

### 水田耕作の農具ずらり

博物館展示会

【浦幌】町立博物館（高橋慎館長）の収蔵資料を展示する「農具展 道具として、文化財として」が、同館展示ホールで開かれている。開催期間は11月3日まで。入場は無料。

今回の展示は、産業とし

ての農業の確立に合わせて農具が多様に発展し、地域の歴史・文化に深く結びついていることへの理解を深めてもらおうと企画。浦幌で水田耕作が行われていた時代の農具を中心に約40点が展示されている。

「耕す」「播（ま）く」「耨（むし）る」「穫（と）る」の4つのテーマでコーナーを設置し、一年間の農作業に使われる農具を紹介。「播く」のコーナーでは水稲直はん器（ねこあし）などがある。くわやもみ殻を飛ばす扇風機も展示され、会場を訪れた菅原富喜枝さん（61）は「昔からいろいろな工夫をしてきたことがよく分かる」と話していた。（円子 伸一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年10月3日

## 浦幌中生が職業体験

### スーパリーや図書館30事業所

【浦幌】浦幌中学校（平岡弘孝校長、生徒88人）の職業体験学習が6～8日の3日間、町内のグループホームやスーパリーなど計30事業所で行われた。

総合学習の一環として毎年行われ、今回は2年生36人が参加。生徒たちは8月からマナー学習に取り組み、体験計画を立てるなどして

町立博物館での職業体験で蒸気機関車の模型展示に取り組み金澤さんと桐山君（左から）



した。博物館で浦幌炭鉱の長屋などの模型を展示した金澤明香里さんは「浦幌に炭鉱があったことを初めて

知ったと話し、桐山星夜君は「手作りの模型がとても精密と驚いていた。」（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年10月14日

## 浦幌 豊北海岸で自然観察

今年最後となる町立博物館主催の連続講座「豊北海岸自然観察会」が3日、同海岸周辺で開かれた。写真。



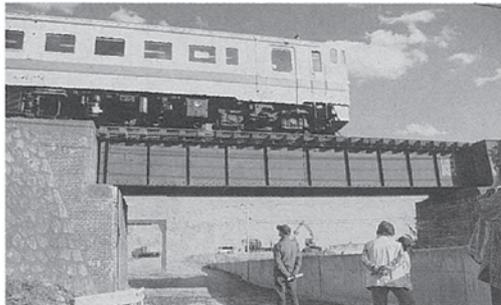
同博物館の持田誠学芸員が解説役を務め、7人が参加。多くの植物が実を付けている中、ウンランやハチジヨウなどの花の終わりも観察した。昆布刈りの断崖では、満開のコハマギクに寄り添うようにハヤブサが羽を休めていた風景も。6月からの5カ月間で、計99種類を観察した。町内在住の主婦（70）は「来年は1年を通して観察したい」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2015年10月10日

## 浦幌レンガ遺構見学

### 油庫や暗渠橋に驚き

乙部川鉄橋を通過する列車を見上げる参加者たち



乗車。れんが製の暗渠（あんきよ）アーチ橋、橋台部分がれんが製の乙部川鉄橋、トンネル坑門部がれんが製の乙部隧道を通過して直別駅に到着した。帰路はワゴン車で逆コースをたどり、それぞれの建造物を近くから観察。同

【浦幌】「浦幌の近代化遺産レンガ遺構を見て回ろう」（町立博物館主催）が12日、JR根室線の浦幌駅―直別駅の間で行われた。「近代化遺産」斉公開2015（11月30日まで、全国近代化遺産活用連絡協議会主催）の企画事業の一環。町内外から8人が参加。浦幌駅構内で1907（明治40）年に建設されたれんが造りの「危険品庫（油庫）」を見学した後、普通列車に

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2015年10月19日

## 浦幌の歴史 農具が語る 町立博物館で特別展



大正から昭和にかけての農作業がうかがえる農具展

【浦幌】大正時代から1960年代ごろまで、町内の農家で使われた農機具を集めた展示会「農具展」が、町立博物館の特別展示ホールで開かれている。来場者らが懐かしそうに見入っている。

いずれも町内の農家から博物館に寄贈されたもの。町内で稲作が行われていた当時の農具を中心に42点を展示している。種を直まきする際に使われた種まき器やくわ、馬に引かせた肥料散布器などが並ぶ。くわでは刃の一部が木製の風呂ぐわ、稲からもみを取るための足踏み式脱穀機もあり、往時の農作業の様子がうかがえる。

11月3日まで。入場無料。午前10時から午後6時まで。

(鈴木圭一)

「北海道新聞」 2015年10月21日

## たうん TOWN

### 浦幌 児童が勾玉作り

町立博物館講座「まがたまをつくろう」が7日、中央公民館で開かれた。



児童11人が参加。帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員が「勾玉（まがたま）は縄文時代のアクセサリー」などと説明し、作り方を指導した＝写真左。子供たちは、四角い滑石（かっせき）に勾玉のラインを書いて紙やすりで削った。くぼみの部分は鉛筆に紙やすりを巻いて削り、耐水の紙やすりで全体をぴかぴかに仕上げた。

削った石の粉で手や顔を真っ白にしながらかつた浦幌小5年の斉藤剛翔（たけと）君は「削るのが楽しかった」と話していた。

削った石の粉で手や顔を真っ白にしながらかつた浦幌小5年の斉藤剛翔（たけと）君は「削るのが楽しかった」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2015年11月11日

### 道東の12博物館 写真で資料紹介

【浦幌】道東の12博物館が所蔵する資料のパネル写真を展示する「巡回展 道東の博物館園が選ぶイチオシの資料・風景」が、町立博物館で開かれている。



各博物館のつながりを深めようと、道東3管内博物館施設等連絡協議会が初めて企画。来年3月末まで、道東各地を巡回する。パネル写真は24枚で、根室管内標津町ポー川史跡自

無料。午前10時～午後6時。26日まで。入場無料。

(鈴木圭一)

「北海道新聞」 2015年11月13日

## ■浦幌 道東の資料や風景

巡回展「道東の博物館園が選ぶイチオシの資料・風景」(道東3管内博物館施設等連絡協議会主催)が、町立博物館展示ホールで開かれている。写真。26日まで。



道東3市9町の博物館園が、地域の特徴を示す「イチオシ」の資料や歴史、風景を写真入りのパネル24枚で紹介。晩成社の「マルセイバター」ラベル(帯広百年記念館)や、東アジアで唯一のK/Pg境界層(浦幌町立博物館)も。来場した三浦直春さん(80)「住吉町」は「それぞれの地域の特色が感じられた」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2015年11月20日

## 浦幌のアンモナイト 絶滅直前まで繁栄

道博物館発表 28日から化石公開

太平洋地域で最後まで生き残ったアンモナイトであったことが判明したと発表された。近く日本古生物学会の機関誌に掲載する。この研究成果を踏まえ、同館は28日から「北海道のアンモナイトとその魅力」と題した企画展を開き、化石標本を公開する。

浦幌町のアンモナイト化石は2012年8月、同町の茂川流布川沿いで発見された。調査の結果、巻きアンモナイトの一種「ディプロモセラス シリンドラセム」と同種で、約6680万年前の産出と推定された。アンモナイト類は白亜紀末の約6600万年前に巨大隕石(いんせき)の衝突の影響で絶滅したとき、化石の地層などから、このアンモナイトが北太平洋地域で最後まで生き残っていたものと断定した。

同館の栗原憲一学芸員は「絶滅時にどのようなアンモナイトが繁栄していたかは一切不明だったが、今回の研究成果で、本種が隕石衝突の直前まで繁栄していたことが初めて明らかにされた」としている。

この成果は日本古生物学会の国際誌「パレオントロジカル・リサーチ」に掲載される予定。同館の企画展は28日から来年1月17日まで開かれる。入場無料。同館の住所は札幌市厚別区厚別町小野幌53ノ2。月曜休館。(道下恵次)

【札幌】北海道博物館(札幌)は25日までに、2012年に浦幌町で発掘されたアンモナイトの化石が、北太平洋地域で最後まで生き残ったアンモナイト(浦幌町立博物館所蔵、画像提供・北海道博物館)



「十勝毎日新聞」 2015年11月26日

北海道博物館（札幌市厚別区）は20日、2012年に十勝管内浦幌町で発掘された化石が6680万年前のもので、北太平洋地域では最も新しく、最後まで生き残っていたアンモナイトだと発表した。6600万年前には巨大隕石の衝突が原因とされる生物の「大量絶滅」が起きており、アンモナイトが大量絶滅直前まで、海の中で繁栄を続けたことを裏付ける発見だ。（文化編集委員 橋井潤）

## 6680万年前の北太平洋地域

# 浦幌産化石 最後のアンモナイト

12年8月発掘

同博物館の栗原憲一学芸員が明らかにした。この化石は12年8月に同町の茂川流布川沿いの露頭で発見。1体のアンモナイトの殻部分で、水道管を折り曲げたようなU字形をしており、最長部分が約30センチ。当初は種類は分からなかったが、他標本との比較から白亜紀に生息していた「異常巻きアンモナイト」の「ディプロモセラス・シリンドラセラム」と同定した。発掘現場は根室層群という地層のグループ。北太平洋地域で唯一、巨大隕石の衝突の影響でできたと考えられる黒色粘土層（約6600万年前）があり、これを境に白亜紀と古第三紀の地層が平行に並んでみ出しになっている。白亜紀側には「古

④北太平洋地域で最後まで生き残っていたアンモナイトと分かった浦幌町で出土した化石  
⑤化石産出地点付近の地層＝十勝管内浦幌町



## 道博物館が研究、発表

地磁気転換」の痕跡から約6800万年前と判明している地層があり、化石はこの地層と黒色粘土層の間で見つかった。二つの地層との距離から、化石の産出年代は6680万年前と推定された。世界的にはもっと新しい年代のアンモナイトも見つかっているが、これまで北太平洋地域では宗谷管内中頓別町、釧路管内厚岸町、兵庫県淡路島、サハリンの、それぞれ約6800万年前の地層から出土した化石が最も新しいとされていた。

栗原学芸員は「80万年は地球の歴史の中ではほんの一瞬。この種類のアンモナイトが北太平洋地域でも絶滅直前まで繁栄していたと考えて間違いない」という。付近ではサメの歯や二枚貝、サンゴなどの化石も見つかっており、大量絶滅前の北太平洋地域の海の生態系の解明が進みそうだ。

**アンモナイト** 約4億年前のデボン紀から6600万年前の白亜紀末まで、海洋に広く生息していた頭足類（イカやタコの仲間）。通常は平面らせん状に巻いた殻を持つが、白亜紀には不規則な形の異常巻きが出現した。

**白亜期末の大量絶滅** 6600万年前、恐竜、翼竜、首長竜、アンモナイトなど、多くの生物が絶滅した。巨大な隕石の衝突で起きた火災と、巻き上げられたちりによる気温の低下が原因とする説が有力だ。

**古地磁気転換** 地磁気とは地球の磁気のこと。数万～数百万年に1度、N極とS極が反転する。火山岩や堆積岩にはそれができた時の磁場が記録されており、これを分析すると地磁気が転換した年代が分かる。



カラスの生態  
歴史も説明

鉏路市博物館  
貞國さん講演

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール「意外と知らない身近なカラスの生活」(町中央公民館、博物館共催)が5日、同公民館で開かれた。鉏路市立博物館学

カラスの生態を開  
設する貞國学芸員  
.....  
芸員の貞國利夫さ  
んが講師を務め、  
町内外から訪れた  
31人が聞き入っ  
た。

貞國さんは、奈良時代の  
万葉集に夜や暁に鳴くカラ  
スの詩があり、古くから身  
近な存在だったと解説。世  
界に123種のカラスがい  
て、日本では11種、道東で  
はカケス、ホシガラスなど  
7種が見られるとした。身  
近にいてよく似ているハシ  
ボソガラスとハシブトガラ

昭和40、50年代の  
タオルやマツチ箱  
町立博物館で展示

【浦幌】昭和40、50年代  
に町の商店が顧客へ配った  
タオルなどを展示した「う  
らほろ懐かしコレクション  
& おまけコレクション」(ぶ  
ちミュージアム)が、町立  
博物館で開かれている。6  
日まで。

「十勝毎日新聞」 2015年12月10日



「十勝毎日新聞」  
2015年12月2日

「ぶちミュージ  
アム」は、町民が作製した  
ものや収集した自慢の品々  
を展示する催しで、同博物  
館では出展者を募集してい  
る。展示はアクリルケース  
1個分で、高価なものや生  
き物は不可。展示期間は2  
週間から1カ月。問い合わせ  
は同博物館(015・5  
76・2009)へ。  
(田子紳一通信員)

懐かしいタオルや  
マツチ箱などが展  
示されている「ぶ  
ちミュージアム」  
で当たったミニタ  
オルセットやザ・  
ドリフターズの結  
成40周年を記念し  
た「全員集合・特  
大缶バッジ」など  
も展示されてい  
る。

# 「意義ある発見」紹介

## 浦幌 アンモナイト化石展

【浦幌】町内で発見されたアンモナイトのレプリカなどを展示する町立博物館の企画展「浦幌のアンモナイト」が同博物館ロビーで開かれている。来年1月17日まで。

浦幌のアンモナイト化石は2012年8月に町茂川流布川のK/Pg境界層直下で発見された。太さ15センチ、長さ50センチほどのU字形で、異常巻きアンモナイト類の「ディプロモセラス・シリ



ンドラセラム」と同定された。北海道博物館（札幌）は11月、北太平洋地域では一番新しく、最後まで生き残っていたアンモナイトだったと発表、化石標本を展

示している。

浦幌でもこれに合わせてレプリカを展示。化石が地層から掘り出される様子を写真で紹介し、発見の意義や地層なども分かりやすく説明している。同博物館の

持田誠学芸員は「浦幌から世界的に意義がある発見がなされた。ぜひ来館して」と話している。午前10時〜午後6時。日曜・祝日の翌日と年末年始は休館。入館無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

同様の展示は足寄動物化石博物館でも来年1月17日まで開かれている。

（田子紳一通信員）  
アンモナイトのレプリカなどが展示されている会場

「十勝毎日新聞」 2015年12月21日

### 記録写真を通じ歴史の見方学ぶ

#### 百年記念館の移動展で講座

【浦幌】帯広百年記念館の移動展「庄田喜真志とから帯広の記録展」が開かれている町立博物館で、夜学講座「同展をじっくり見る『写真からわかること』」が行われた。

同展は、十勝川の渡船や帯広魚菜市場、冬山造材の飯場の様子など、昭和20〜50年代の十勝・帯広の姿を伝えるモノクロやカラーの写真109点が並んでいる。

写真から分かる時代背景などについて説明する持田学芸員



講座は昨年12月16日に行われ、町内外の7人が参加。同博物館の持田誠学芸員が講師を務め、庄田さんの人

柄や写真から読み取れる当時の時代背景、質感のある現像写真と平面的なプリント写真の違いなどを説明し、記録写真から伝わる歴史の一端を紹介した。

帯広市から参加した写真撮影が趣味という男性（56）は「違った視点からの解説が面白かった」と話していた。

同展は10日まで。入場無料。日曜・祝日の翌日と年末年始は休館。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。移動展は、本別町中央公民館（14日）

「十勝毎日新聞」 2016年1月4日

2月18日）、土幌町総合研修センター（2月20日〜3月6日）でも開かれる。  
（田子紳一通信員）

### メニューや楽曲 収集の役割大切 「地域博物館」講演

【浦幌】うらほろスタイルセミナーの一環として講演会『「今」を集める博物館―記録する 地域博物館の役割―（町立博物館、町中央公民館共催）が9日、町教育文化センター「うらほろ21」で開かれた。

町内外から22人が参加。小樽市総合博物館の石川直章館長が講師を務め、中華料理屋のメニューや卒業式



地域博物館の役割などを解説した石川館長

に歌われる楽曲の収集、祭りの露店調査などの同館の

活動を紹介。現代の世相や風俗を研究する「考現学」（考古学をもじった造語）

を解説し、「文化がいつどのように変わるのか、その時をとらえることも地域の博物館が果たす大切な役割」などと話した。

町内在住の池田昌策さん（75）は「博物館は古いものを調べ展示するだけだと思っていたが、今を記録して将来に残すことも大切と分かった」と話し、博物館の役割に理解を深めた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2016年1月14日

### ボランティアで 歴史資料手入れ 町立博物館

町立博物館

【浦幌】町立博物館が収蔵する資料を町民ボランティアの協力で手入れする「お茶を飲みながら資料を磨く会」が11日、同館学芸員室で開かれた。

この日は8人が参加。大正から昭和にかけて使われ、町民から寄贈された鉄瓶や炭火アイロン、農具の



くわなど23点を磨いた。どの資料も表面が赤さびに覆われていたが、たわしで丁寧にさびを落とし、新聞紙で磨き上げた。仕上げにオイルを吹き付けると、鉄独特の輝きを取り戻した。豆などの検査サンプルを取り出す「刺し」を磨いた男性（64）は「さびだらけだったけど、きれいになった」と話していた。

次回は2月11日、午前10時から午後4時まで同館学芸員室で開かれる。

持田誠学芸員は「展示されていない資料も多くあるので、町民の皆さんの協力をいただいきたい」と参加を呼び掛けている。都合のつく時間帯に参加するとよい。

（田子紳一通信員）

収蔵資料を磨く参加者たち

「十勝毎日新聞」 2016年1月16日



アカゲラの剥製を観察する児童たち

を支えるから」などと解説し、「浦幌にもアカゲラが住んでいるのでぜひ見て」と呼び掛けた。

児童たちは巣穴の中が意外に広いことを実感。巣穴は毎年新しく作られ、古い巣穴はモモンカやエゾリス、ヘビなどが利用することも学んだ。アカゲラの剥製に触れた長根みるくさん（厚内小3年）は「ふわふわしていてかわいい」と話した。

（田子紳一通信員）

【浦幌】町立博物館の冬休み子ども博物館講座「アカゲラBOX」が15日、同館展示室で開かれた。町内の児童28人がキツツキの生態や取り巻く環境を学んだ。

帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員と小林真樹学芸員が講師を務め、剥製や実際の巣穴を見せて、「どんな木に巣穴を作るか」などのクイズを交えながらアカゲラの習性を説明。「キツツキが木に垂直に止まれるのは、鋭い爪と硬い尾羽で体

【十勝毎日新聞】 2016年1月17日

### 全国各地の孔版画賀状

29日まで展示会

【浦幌】「2016全国孔版画賀状展」（うらほろ孔版画サークル主催）が29日まで、町立博物館・展示ホールで開かれている。

十勝孔版画の会の千葉定是会長（幕別在住）が、全国の孔版画愛好グループに呼び掛け毎年実施しており11回目。町内の会員4人の6点の他、十勝や道内、宮城県や福岡県など全国13グループ112人から寄せられた計140点の年賀状を展示。今年全国から千葉さんに届いた151点と1992年、2004年の申（さる）年に届いた版画年賀状



93点も並んでいる。申にちなんだ「見ざる聞かざる言わざる」やほほ笑ましい親子ざる、季節感あ

ふれる雪景色など、手作りの温もりが伝わる作品が並び、来場者の目を楽しませている。うらほろ孔版画サークルの小山妙子

会長は「年賀状から制作者の思いが伝わる。ぜひ見に来てほしい」と来場を呼び掛けている。時間は午前10時～午後6時（最終日は午後4時まで）。入場無料。

（田子紳一通信員）

うらほろ孔版画サークルのメンバーと千葉会長（前列中央）。後列左から2人目が小山会長

【十勝毎日新聞】 2016年1月20日

## ヒグマ調査町民へ発表

浦幌町立 博物館 来月6日に大学生ら

【浦幌】町立博物館は2月6日、9人の大学生・大学院生による卒業論文発表会「浦幌のヒグマ こんになに調べました」を同館で初めて開催する。毎年20人程度の大学生らが訪れ、「ヒグマ研究のメッカ」となっている浦幌での調査の成果を、地元住民に向けて報告する。



発表会への参加を呼び掛ける博物館職員

【浦幌】町立博物館は2月6日、9人の大学生・大学院生による卒業論文発表会「浦幌のヒグマ こんになに調べました」を同館で初めて開催する。毎年20人程度の大学生らが訪れ、「ヒグマ研究のメッカ」となっている浦幌での調査の成果を、地元住民に向けて報告する。これは、町民向けに研究成果を報告するのは今年が初めて。これまで調査に訪れた大学生は博物館講座「ヒグマの学校」などに協力してきたが、町民向けに研究成果を報告するのは今年が初めて。佐藤教授は「ヒグマの生態や人との関係などについて、映像も交えて紹介する興味深い内容になっている」と話し、同博物館の持田誠学芸員は「浦幌で貴重な研究が行われていることを知らない町民も多い。ぜひ学生の発表を見に来てほしい」と呼び掛ける。午後1時半～同4時半。参加無料。申し込み不要。入退場自由。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（末次一郎）

〔十勝毎日新聞〕 2016年1月28日

## ヒグマ産子数、ミズナラが影響

浦幌で調査の学生が研究発表



【浦幌】町内や近隣の道大学院修了2年）は「カメラトラップを用いた阿寒白糠地域のヒグマ個体群の繁殖実態の推定」と題して発表。卒業論文発表会2016 in 浦幌 浦幌のヒグマこんになに調べました！(町立博物館主催)が6日、町教育文化センター視聴覚ホールで開かれた。町内外から80人余りが来場。酪農学園大学、日本大学、帯広畜産大学の9人が発表した。石橋悠樹さん(酪農学園

卒業論文を発表した大学院生たちと佐藤教授(前列中央) 山中岳史郎さん(日本大学4年)の「哺乳類の糞を用いた栄養状態評価のための近赤外線分光分析法の有用性の検討」、谷洗哉さん(酪農学園大4年)の「カメラトラップで撮影した画像解析を用いたヒグマの肥満度の評価法の検討および産子数との関わり」など、ユニークな研究内容も発表された。卒業論文の作成を指導した酪農学園大学環境共生学類動物生態学研究室の佐藤喜和教授は「ヒグマが山の

中でどのように生きているのか、現地で実感することが大切」と総評し「地域の方々に応援されて調査が続けられている」と感謝していた。(田子紳一通信員)

〔十勝毎日新聞〕 2016年2月11日

# アンモナイト里帰り

## 3年半ぶり 浦幌町立博物館で展示

【浦幌】2012年8月に町内の茂川流布川で十勝で初めて発見されたアンモナイトが里帰りし、町立博物館で常設展示されている。三笠市立博物館や北海道博物館での修復や研究を経て、北太平洋地域で最後まで生き残ったことが判明したアンモナイトは、3年半ぶりに町内に戻り町民の関心を集めている。

## 6680万年前の化石

アンモナイト化石を手にする発見者の1人の佐藤さんと栗原学芸員(左から)



町立博物館に展示されているアンモナイト化石



このアンモナイトは同年6月のK/Pg境界層の見学ツアーの際、元町立博物館長の佐藤芳雄さんがシダの葉のような化石を発見。同年8月に天野和孝上越大学教授とロバート・ジェンキンス金沢大学助教がアンモナイトの化石と指摘した。当時三笠市立博物館の主任研究員で現在は北海道博物館の栗原憲一学芸員らが来町して採取、復元し、異常巻きアンモナイト類のダイプロモセラスコディアプロモセラス属「ディアプロモセラス・シリンドラセア

△と断定した。復元された化石は、長さ50センチほどのU字形で、赤褐色に輝いている。本体は非常にもろい泥岩で、100個以上の破片を接着剤でつなぎ、パラロイド樹脂でコーティングされている。

展示を始めた8日には、栗原学芸員を講師に招き、町立博物館などがうらほろスタイル・セミナー「浦幌でみつかった最後のアンモナイト」を教育文化センターで開催。町内外の32人が参加した。

栗原学芸員は「浦幌で見られた化石は、アンモナイトが絶滅する直前の約6680万年前のもので推定され、北太平洋地域で最後まで生き残っていた」と解説。巻貝との違いや現存するオウムガイやイカの仲間であることも紹介し、「復元作業はバスルを組み立てるより難しかった」とのエピソードも語った。

化石採取が趣味の笹島基吉さん(61)＝町内在住＝は「化石がより身近に感じられた。今年も探しに行きたい」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2016年2月13日

町立博物館の持田誠学芸員は「十勝初のアンモナイト。ぜひ見に来てほしい」と来館を呼び掛けている。同館は入場無料。月曜日と休日の翌日は休館。開館時間は午前10時～午後5時。問い合わせは同館(015・576・2009)へ。(田子紳一通信員)

## 浦幌のヒグマ 生息数横ばい

### 酪農学園大生ら発表

【浦幌】町内の森林などでヒグマの生息調査を行っている酪農学園大学(江別市)の4年生らの卒業論文発表会が、町立博物館で開かれた。写真。



同大の野生動物生態学研究室(佐藤喜和教授)は2013年から、町内でクマの調査を開始。日ごろの研究生ら計9人が発表した。町内の山林から見つかったクマのふんを調べたところ、1990年代に町内のクマ生息数は減少したが、2000年以降は横ばいとなっていると報告された。またカメラ撮影に基づく発表では、14年はミズナラの実が豊作だったため、クマの肥満度が高く翌年生ま

「北海道新聞」 2016年2月13日

れた子の数も多かったことが分かった。来場者は、メモを取りながら熱心に聞き入っていた。(鈴木圭一)

### 地元出土 アンモナイト展示

●浦幌 十勝管内浦幌町で発掘された、6680万年前のアンモナイト化石が、北海道博物館（札幌）から浦幌町立博物館へ返還され展示されている。白亜紀に生息していた「ディプロモセラス・シリンドラセラム」で来館者は古代に思いをはせている。

「北海道新聞」 2016年2月19日

### アンモナイト化石 道博物館から戻る

浦幌町立博物館

【浦幌】町内で発掘された6680万年前のアンモナイト化石が、北海道博物館（札幌）から町立博物館へ返還され展示されている。6600万年前に起きた巨大隕石の衝突が原因とされる生物の「大量絶滅」以前では、北太平洋地域で最も新しいアンモナイト化石で、来館者は遠く古代に



思いをはせている。

化石は白亜紀に生息していた「ディプロモセラス・シリンドラセラム」。途中で折れているが、つなげるとU字形をしており、長さ約50センチ、最も太いところで

返還されたアンモナイト化石

約15センチ。

2012年6月に町内の茂川流布川の岸辺で佐藤芳雄・前町

立博物館長が発見した。返還を受け、町立博物館で10日から展示しており、持田誠学芸員は「今後、化石が見つかった現地での見学会などを実施したい」と話している。

（鈴木圭一）

「北海道新聞」 2016年2月19日

### アイヌの暮らし 木を主題に講演

スタイルゼミ

【浦幌】うらほろスタイルゼミナールの一環として「木と生きる アイヌの暮らしと木の造形」を振り返って（町立博物館、町中央公民館共催）が14日、同博物館展示ホールで開かれた。

町内外から25人が参加。昨年、埼玉県の人間市博物館と道立旭川美術館で開催された「木と生きる アイヌの暮らしと木の造形」展に、企画委員として関わった道立帯広美術館の五十嵐



聡美学芸員と町立博物館の持田誠学芸員が講演した。五十嵐学芸員はアイヌが祭祀（さいし）に用いた「イクパスイ」について説明。

クマヤオオカミ、ラッコ、ザリガニなどが彫り込まれたさまざまなイクパスイを紹介。「キリスト教のミサ、日本の茶道、カムイノミで見られる回し飲みから、これまで考えていなかった文化の交流を想像した」と語った。

持田学芸員は、衣服「アットウシ」の原料となる樹木「オヒョウ」など、アイヌが利用した木や草本について説明した。「生活や祭祀の作品とは違うクマの木彫りは、お土産品としての展示が面白かった」と話した。町内在住の60代男性は「イクパスイの素晴らしい芸術性に驚いた」と話していた。（伊子紳一通信員）

講演する五十嵐学芸員と持田学芸員（左から）

「十勝毎日新聞」 2016年2月20日



蔵資料展「ひな人形をさがせ」

一番古い時代のひな人形どれ？

町立博物館 蔵資料展

【浦幌】町立博物館の蔵資料展「ひな人形をさがせ」が3月3日まで、同館常設展示室で開かれている。町立図書館では「ひなまつりのえほん展」も同時開催されている。展示室内には、建物の中に内裏ひなを置いた「御殿飾り」、オルゴール付きの「仕掛け飾り」など町民から寄贈された5種類のひな飾りと1つのひな掛け軸を、分散して配置。それぞれ時代の違うひな人形の中で一番古いものは、これを探す試みた。

祖母の赤間美津子さん(67)と音更町から来場した絵友(かいと)ちゃん(3)は「かわいいね」と笑顔だった。

図書館では「もりのひなまつり」や「ひなまつりのこひこのはなし」などひなまつりに関する約6冊の展示、貸し出しも行っている。十勝総合振興局森林室が作製した「木育(もくいく)びな」も展示している。西展示は入場無料。月曜日は休館。開館時間は博物館が午前10時～午後5時、図書館は午前10時～午後6時。

問い合わせは博物館(015・576・2009)、図書館(015・576・5000)。田子紳一通信員

「十勝毎日新聞」 2016年2月24日



井下さん、西田さん(前列左から)とサロンコーラスのメンバー

# 浦幌の音楽歩み紹介

ピアノ教室とサロンコーラス 衣装や写真

【浦幌】町立博物館の企画展「サロンコーラスとピアノ教室の歩みからみる浦幌の音楽文化(同博物館・うらほろサロンコーラス・西田祐子ピアノ教室共催)」が3月20日まで、同館展示ホールで開かれている。それぞれ40年、25年となる2団体の活動を紹介することで、町内の音楽活動の歴史を振り返る展示となっている。

## 町立博物館で企画展

「うらほろサロンコーラス」更。昨年11月に創立40周年ス(井下まきの代表、団 記念の第40回定期演奏会を員21人)は、1976年に 行った。86年に町文化奨励「浦幌合唱団」として発足 賞を受賞し、93年に現在の名称に姿 「西田祐子ピアノ教室」

(西田祐子主宰、門下生22人)は90年に開設。昨年12月に第25回記念発表会を行った。2001年に町文化奨励賞を受賞。西田さんは88年から、サロンコーラスの定期演奏会でピアノ伴奏を担当している。

展示ホールには、同コーラスの初回から40回までの定期演奏会のプログラムや衣装約15点、歌った曲を掲載したリーフレットなどが並ぶ。同ピアノ教室の初回から25回までの発表会プログラムも展示。それぞれの活動を伝える写真も懐かしい。

展示が始まった20日には、同コーラスのメンバーが手作りのニンジンのパウンドケーキを来場者にプレゼントした。

井下さんと西田さんは「地域のみなさんと共に歩んだ音楽の歴史。ぜひ見に来てほしい」と来場を呼び掛けている。入場無料。午前9時～午後6時。

3月12日には博物館ロビーで、同コーラスと同じピアノ教室によるミニコンサート「春のうた」が開かれる。午後2時～同3時。入場無料。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2016年2月26日



## XV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

### ○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。

2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

## ○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは滞滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認められた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めるときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。

(2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。

(3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。

(4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。

(5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

住所 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 印

次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。

記

1 寄贈、寄託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 寄託の場合、寄託期間  
年 月 日 から 年 月 日

別記様式第2号

博 物 館 資 料 受 領 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、  
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 寄贈資料

資 料 名	数量	摘 要

別記様式第3号

博 物 館 資 料 受 託 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、  
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 受託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 受託期間  
年 月 日 から 年 月 日

※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

申請者 住所 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 印

次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。

記

利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 ( 日間)	
利用方法	閲覧・複写・複製・撮影・複製・その他 ( )	
利 用 資 料 名	点数	備 考

XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申請者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ~ 年 月 日 ( 日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ( )	
利 用 資 料 名	点 数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

	受付番号	第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使用目的		
模写等区分	模写・模造・撮影・複写	
製作等区分	刊行・複製・研究発表等	
作品名		
製作数		
予定価格	有料 ( 円 ) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模写等資料名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

	承認番号	第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申請者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使用目的		
模写等区分	模写・模造・撮影・複写	
製作等区分	刊行・複製・研究発表等	
作品名		
製作数		
予定価格	有料 ( 円 ) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模写等資料名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

## ○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号

平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
  - (2) 浦幌町立博物館の印
  - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
  - 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
  - 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

- 2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物館

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）



## XV. 平成27年度予算

### 10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
1,675	0	1,675	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	185	報償金 185
			9 旅 費	155	費用弁償 2
					普通旅費 155
			11 需用費	1,137	消耗品費 487
					印刷製本費 573
					光熱水費 18
					修繕料 350
					賄材料費 10
			12 役務費	110	通信運搬費 72
					手数料 38
13 委託料		その他委託料 0			
14 使用料及び賃借料	0	その他借上料 0			
15 工事請負費	0	工事請負費 0			
16 原材料費	10	原材料費 10			
18 備品購入費	30	備品購入費 30			
19 負担金、補 助及び交付 金	23	北海道博物館協会負担金 15			
		帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3			
		道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5			
		研修会参加負担金 0			

## 浦幌町立博物館年報 第17号

発行日 2016年11月30日

編集・発行 浦幌町立博物館  
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1  
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社  
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地  
電話 0155-23-5107 FAX. 0155-23-9032